

学校だより

Vol. **101**

2016.11



Contents

- 02 校長 入学式式辞
- 04 三主事・専攻科長あいさつ
- 05 各科・各コースの近況
- 09 インターンシップ報告
- 17 学生の海外での活躍
- 地域復興支援室の取組

- 18 体験入学を終えて
- 19 学生の活躍
- 23 クラブ活動紹介
- 25 TOPICS
- 28 新任教職員紹介
- 30 ミニ研究発表会
- 31 校内体育大会



福島工業高等専門学校

第五十五回 入学式

第五十五回入学式 及び
平成二十八年度編入学 並びに
第十三回専攻科入学式式辞

福島工業高等専門学校長 中村 隆行

新入学生二百五名、留学生二名を含む編入学生三名、専攻科生二十九名の皆様の福島高専への御入学をお慶び申し上げます。誠におめでとうございます。

また、御列席の保護者の皆様、お子様の御入学を心からお祝い申し上げます。

寒かった冬が過ぎ、春の暖かい日差しや風を感じる季節になりました。本校、構内の桜の木も、春を待ちかねるように開花し始めています。その中で、本日、多数の新入学生諸君を福島高専にお迎えすることを、教職員、在校生一同、大変喜ばしく思っています。

皆さんが入学した福島高専は、昭和三十七年、国立工業高等専門学校の第一期校として、他の十一の高専と共に創立されました。本日、入学した皆さんは本校への第五十五回目の入学生となります。この間、本校から、およそ七千八百名の創造性と実践性を併せ持つ卒業生・修了生が巣立ち、様々な産業分野で活躍しています。本日、入学した諸君も、地域の震災からの復興と新しい日本や福島の創生のために、先輩たちに負けずに活躍が出来るよう、本校でしっかりと勉学を積み重ねるとともに、人間力を育成してください。

福島高専では、皆さんが勉強するにあたり、教育理念を定めています。

本校の教育理念の第一は、「広く豊かな教養と人間力の育成」です。本日、入学した皆さんの多くは、将来、我が国の様々な分野で活躍することとなりますが、我が国や地域の発展にどのように役立つかを考えるためには、最初に、幅広い教養と倫理観を身につけることが大切です。さらに、人生における様々な困難に打ち勝つ人間力を育成することが重要です。これが、本校の教育理念の第一です。

教育理念の第二は、「しっかりした基礎力に基づく創造性と実践性の育成」です。卒業後、幅広い分

野で活躍できる創造的、実践的な人間となるためには、基礎知識に裏打ちされた柔軟な発想や企画力を保有する人材となる必要があります。現場、現物、現実を踏まえて、総合的な判断の下に、複合的に絡み合う課題の解決や、社会のニーズに応える能力を育成することが肝要です。皆さんには、創造性と実践性を兼ね備え、新たな産業を起こしうる「イノベーション人材」に育ってもらいたいと思っています。これが、教育理念の第二です。

教育理念の第三は、「国際性とコミュニケーション能力の育成」です。グローバル化に伴う国際競争の激化に伴い、我が国を取り巻く状況は激変しています。また、世界における我が国の状況や立場も、新興諸国の台頭により衰退の一途をたどっているとの指摘もあります。このような背景を踏まえ、皆さんには英語力を向上させることは言うまでもなく、英語で自分の意見を言い、異なった環境に住む相手の考え方を理解した上で、その相手とディベートも出来る能力を育成してもらいたいと思います。今後、皆さんが、世界で活躍するためには、この素質を育成することが重要です。これが、教育理念の第三です。

さて、これからの五年間、皆さんは次の四つの点を念頭において勉強してください。

まず、第一に、学校で定められた規則・規律を守り、皆が学校で快適に生活出来るように努力してください。

第二に、授業で教えてもらうのではなく、自ら疑問を持ち、自ら調べ、わからないところを授業で質問して確認する姿勢を保ってください。皆さんは、目的を持って、この福島高専に入学してきたはずで、社会に出て専門分野で活躍したい、または、大学や大学院に進学して、さらに専門分野を磨きあげたいなどの目的を持っているはずです。その目的に向かって、自ら学習する姿勢を保ってください。皆さんは、中学校では、受動的に授業に出てさえいれ



ば、その授業について行けたかと思います。しかし、高専では、自宅に戻ってから予習や復習を行わない限り、勉強についていくことは困難です。勉学の動機を失わずに、目標を決めて能動的に勉強してください。

第三に、課外活動を楽しんでください。文化部やスポーツ部に所属し、集団や組織での活動能力やコミュニケーション能力を身につけてください。

第四に、何でも語り合える友人を作ってください。高専在学中の友人やクラスメート、クラブ活動の仲間、一生の友人になりますし、これらの友人によって皆さんの人間力も育くまれます。

本日入学した皆さんのために、福島高専は、卒業後の様々な進路を提供しています。五年間の課程を終えて、準学士の称号をもって就職することも出来ますし、本校の専攻科へ進み、大学卒と同じ学士の学位を得ることも出来ます。また、国立大学等の三年生への編入学への道もあります。今から、保護者と相談して自分が進む道を見据えながら、日々、健康に気を付けて、夢と希望を持って勉学に励んでください。

次に、専攻科への入学生諸君。諸君は、本科五年間で修得したことを基礎に、さらに高度な基礎科目と専門科目を学ぶことになります。専攻科二年の課程を終え、学位審査に合格すると、大学評価・学位授与機構から大学卒業と同じ学士の学位を得ることが可能です。

さて、東日本大震災から五年が過ぎました。一昨年の六月に取りまとめられた、福島・国際研究産業都市構想、いわゆる「イノベーション・コースト」構想は、世界が注目する福島浜通りの再生を目指すものです。その中では、「廃炉へのチャレンジ」として、福島第一原子力発電所の廃炉を加速するための国際的な廃炉研究拠点の整備や、ロボットについての研究・実証拠点の整備が、また、「新しい産業

基盤の構築」として、国際産学連携拠点の整備、スマート・エコパークの整備、エネルギー関連産業の集積、農林水産業における新産業創出などが、その主要プロジェクトとして挙げられているところです。まさに、福島浜通りをマイナスからプラスに変えることが求められており、イノベーション・コースト構想は、このことを実現する主要な施策であり、福島高専も、この流れに即応し貢献していきたいと考えています。

具体的には、専攻科に復興人材育成特別プログラムを設けるとともに、昨年四月には、工学系の専攻科を改組しました。従来の工学系二専攻を、産業技術システム工学専攻の一専攻に統合し、その下に、生産・情報システム工学コース、エネルギーシステム工学コース、化学・バイオ工学コース及び社会環境システム工学コースの四つのコースを設置しました。福島第一原子力発電所の廃炉や、福島県が目指すロボット開発、再生エネルギー開発などを支える人材を育成することが、その大きな狙いの一つです。

また、グローバル化の時代にあって、国際感覚を身に着けることは必須です。専攻科への入学生諸君は、自らの英語力を向上させ、是非とも海外インターンシップなどに挑戦してください。さらに、最近の産業分野では、工業技術の大型化や高度化によって、より高度な知識や技術が必要とされています。これらの様々な観点から将来の自分を考えて、学習計画をたててください。専攻科生として十分な知識と教養を身につけることができるよう、また、後輩の良き手本となるように日頃から勉学に励んでください。

最後に、新入学生諸君全員には、日々健康に気を付けながら、勉学や人間形成に励み、本校を巣立つまでに大きく成長して、社会に、大学に、大学院に進んでいけるよう祈念して式辞といたします。

三主事・専攻科長あいさつ



基本をしっかりと

教務主事
大 槻 正 伸

教務主事2年目になります、電気工学科の大槻です。よろしくお願い致します。

まず、福島高専の改組等の状況ですが、平成29年度に工学系4学科の改組があります。平成27年度には専攻科改組、平成28年度にはコミ科のビジコミ科への改組があり、平成29年度の改組で完結する形となります。改組後はどの学科も、現在の技術動向を取り込み、もちろん基礎的なところは共通で学習しますが、学生は希望により幅広く科目選択ができるようになり、いわゆるセルフキャリアデザインが従来よりもやりやすくなります。

社会も学校も状況は変わりつつありますが、重要なことは、意欲を強く持ちしっかりと勉強することだと思います。先日集会でもお話しましたが、「これは自分に関係がない」と思った瞬間に勉強のモチベーションは下がります。学生のうちの勉強は、たとえ専門科目であっても、社会全体で見たら基礎であり、全て手をぬけないものです。若い学生のうちに意欲をもってたくさんのかたを身につけてほしいと思います。そのための支援をして、基礎学力の充実、実践力の向上にむけて少しでもお役に立てるよう努力していきますので、今後ともよろしくお願い致します。



安全安心な学生生活

学生主事
西 口 美津子

今年4月の熊本地震では、学生会を中心に学生達が自主的に募金を集め、被災地に思いを届けることができました。また、7月には福島高専の長年の献血活動が認め

られ、厚生労働大臣より表彰を受けることができました。困っている人への感受性は、十代の方が強いといいますが、他人を思いやる学生達の優しさと行動力に頭の下がる思いです。

さて、今年の高専体育大会は、東北地区大会で目覚ましい成績を残し過去数年で最多の全国大会出場を果たすことができました。全国大会での優勝は、種目別の陸上競技や卓球女子、そして2位には卓球男子や水泳の種目別等、例年通りながら来年に期待の持てる結果です。また、福島県大会で団体戦優勝を果たした将棋部や、昨年同様全国大会出場を果たしたロボット技術研究会が、明るい話題を提供してくれました。

8月には岡山で高専フォーラムに合わせ機構の協議会が開かれました。機構理事や専門家の話の中で、ポテンシャルのある若者を集め早期専門教育を行っている高専への高い評価と共に、SNSによるトラブルを初め、ネットによる新たなストレスに晒されている学生達の危うさを痛感しました。学生が、安全に安心して勉学に励める様、全力を尽くす所存です。ご支援、ご協力の程、どうかよろしくお願い致します。



明るく活気ある寮へ

寮務主事
笠 井 哲

寮務主事3年目の笠井です。今年度から、従来行われて来た4月の対面式を廃止しました。代わりに新入寮生歓迎行事として、カレー作り大会を行い、新入寮生と上級生と

が相互に自己紹介をしたところ、和やかな雰囲気でした。偶然にも、5月には高専機構の谷口理事長から各校に、「寮の古いしきたりをやめる」よう指示があり、それに呼応する形になりました。今年の1年生は、強制されたわけではありませんが、自発的に挨拶をしています。昨年度掲げた、「自主・自律の育成」を推進できました。

また9月15日(木)と16日(金)に、長野高専で開催された第2ブロック寮務主事会議で、管理棟(こずえ寮)限定ですが、教育実習に来た大学院生(卒業生)や福島第一原発でインターンシップを行う他高専生の宿泊を紹介したところ、他校にない先進的な取組みであることがわかったので、拡充していきたいと思います。

さて、中村隆行校長が3年目となる今年も、5月18日(水)に、視察を兼ね宿直されました。9月28日(水)には、寮生役員と寮務委員との懇親会にも出席して下さいました。寮務委員会も、広く寮生たちの要望を聞き、「明るく活気ある寮」にしたいと思います。



専攻科が2専攻 5コース制として完全始動

専攻科長
原 田 正 光

3月に、専攻科開設以来続いた機械・電気システム工学専攻と物質・環境システム工学専攻の最後の修了生を送り出しました。そして4月

には新入生29名を迎えることができ、これにより完全に2専攻5コース制の状態で行っています。

現在、1、2年生を合わせて機械工学科出身者13名、電気工学科出身者19名、物質工学科出身者17名、建設環境工学科出身者9名、コミュニケーション情報学科出身者15名で、総勢73名の学生が学んでいます。出身学科によるばらつきはありますが、定員の1.46倍の在籍状況であり、人気の専攻科を保っています。大学院への進学、公務員上級職での採用、準学士課程卒業生には開かれていない企業等への就職など、進路における専攻科修了生のメリットが次第に浸透してきたことがその背景にあるのかもしれませんが。就職先について言えば、市内・県内を希望する学生の比率が高いのも専攻科の大きな特長です。

今後ますます、個々の専門分野の枠組みにとらわれずさまざまな状況や課題に柔軟に対応できる人材の育成や周囲と協力しながらチームワークやコミュニケーション能力を備えた人材の育成をめざし、この地域と深く関わる高専専攻科として、引き続き優秀な人材を地域に多く定着させたいと考えています。

各科の近況 [本 科]

一般教科の近況



一般教科長 鳥 居 孝 栄

1年生も、定期試験、高専大会、夏休みなど学校行事を経験するにつれて、次第に高専生活に慣れてきて、授業、課外活動などに積極的に取り組んでいるようです。

さて、教員の異動についてご報告いたします。人事交流で鹿児島高専から来られた数学科の白坂繁先生が、交流が終了しまして、4月に鹿児島高専の方に戻られました。また、数学科の馬場蔵人先生、国語科の古田正幸先生のお二人は、大学の方に栄転されました。国語科の後任として、4月から、渡邊賢治先生が着任されました。渡邊先生は、松江高専での勤務の経験が

ありますので、経験を活かして、活躍されることを期待しています。数学の後任は、後期から着任の予定です。

一般教科の教員は、学生たちの学習の基礎的能力を養うとともに、人間性育成のためにも、学級担任指導、課外活動指導などを、日々積極的に行っているところです。

機械工学科の近況



機械工学科長 高 橋 章

2年ぶりに2回目の学科長を拝命しております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、教員の異動ですが、今年の3月末に前学科長の木下博嗣先生が定年で御退職されました。木下先生は御出身であり前任地でもあります北海道大学で非常勤講師をされているようです。また、専攻科地域復興人材育成担当特命教授の實川資朗先生が機械工学科へ来られました。さらに、6月には、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）担当の特命准教授として赤尾尚洋先生が着任されました。赤尾先生の前任地は鳥取大学です。赤尾先生の専門

は材料学で、機械工学科5年生の「材料強度学」の授業を担当されております。木下先生の後任教員は来年4月に着任する予定です。

5年生の進路につきましては、在籍の43人中22人が進学で21人が就職希望ということで、ちょうど半々です。昨年度は8月が就職試験の解禁で戸惑いがありました。今年からは6月解禁になりましたが、昨年よりも早くなったために落ち着き、混乱はなかったようです。

今後も優れた学生を輩出するために機械工学科教員一同努力を惜しまない所存ですので、ご家庭からの御協力も引き続きお願い申し上げます。

電気工学科の近況



電気工学科長 鈴 木 晴 彦

今年4月、「高専・両技科大間教員交流」により、茨城高専・電気電子システム工学科から2年間の任期で若松 孝教授が着任されました。近年の専門研究では「タンパク質を凝集し結晶化する」ことを手掛け、国内外に多くの研究成果を発表されています。また、これまでは専攻科所属の特命教員で着任されておりました徐 艶濱准教授は、この4月より、電気工学科所属の特命教員として「卒業研究」や「学生実験」などにも多く関わって頂き、特に「電力マネジメント」に関する研究に於いて、専攻科の「特別研究」や地域の研究機関との連携に力を注

いで頂いております。

さて、今年の5年生（41名）の進路希望は、概ね進学50%、就職50%であります。10月中旬の時点で、進学希望者の殆どが進学先を決定しており、本校専攻科が6名、長岡・豊橋両技科大が各1名、その他の国立大学が8名、専門学校1名であります。一方、就職希望学生の就職内定先の一例としては、アルパイン、出光興産、関電工、キヤノン、東京電力、日本触媒、本田技研工業など大手企業の内定も実現しております。

平成29年度、「電気工学科」は「電気電子システム工学科」に学科名称を改め、新たに「電力情報」、「制御情報」の分野での実践教育を展開し、これからの福島、そして日本を電気電子技術で支えるクリエイティブ・エンジニアの育成に取り組んでまいります。

各科の近況 [本 科]



物質工学科の近況

物質工学科長 青 柳 克 弘

今年度も昨年度に引き続き学科長を拝命いたしております。よろしくお願いいたします。まず、教員の異動ですが、昨年度1年間、カナダのキングストン市にあるクイーンズ大学に留学していた梅澤洋史先生が戻ってこられました。教育・研究両面で大きな成果が得られたと聞いており、物質工学科のために役立てていただきたいと思います。また、今年度は福島高専が原子力規制庁の人材育成事業に採択され、その関連で、生物、生化学またはその関連分野の教員1名と応用化学、環境工学またはその関連分野の教員1名を物質工学科の教員として採用する予定になっております。お二人とも5年間の任期付きですが、我々の仲間として学生の教育にご尽力いただければありがたいと思っています。

今年度の5年生44名は、22名が進学、22名が就職希望です。異分野の大学を受験する1名を除いて全員の編入学先が決定しました。また、就職も、化学・製薬メーカー等を中心に全員が内定をいただきました。

後期が始まっておりますが、物質工学科では、時代の変化に即応できる、幅広い知識をもった人材の育成に教員一同取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力のほどよろしくお願い致します。



建設環境工学科の近況

建設環境工学科長 緑 川 猛 彦

昨年度に引き続き学科長を拝命しております。よろしくお願いいたします。まず、建設環境工学科の教員団についての近況をご報告いたします。地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）が文部科学省で採択され、これに関わる教員として平成28年7月より江本久雄先生が赴任されました。江本先生は、建設構造物のメンテナンスに関して情報処理の分野からアプローチする研究を山口大学で行っており、本校では専攻科2年生の「維持・管理工学」を担当されます。地（知）の拠点大学による地方創生推進事業では、今後5年間で県内企業への就職率を現在より10%増加することが求められており、江本先生にはこれに関わる活動も担当して頂きます。

また学生の動向についてですが、相変わらず女子学生の人気が高く、今年の1年生は45名中11名が女子学生で、建設環境工学科全体では206名中67名（約33%）が女子学生です。就職に関しては、今年度も企業の採用活動が活発であり例年通りの売り手市場で、東京ガス、東京電力、NEXCO東日本等の発注者側への就職が多くを占めています。一方、今年度は進学率が高く約64%（44名中28名）が進学を希望しており福島高専専攻科、東北大学、長岡技術科学大学等への進学が決定しています。

以上のように、学科全体としては順調ですがこれも学生が優秀であるおかげです。良い学科であるよう建設環境工学科教員一同取り組んで参りますので、ご家庭におきましてもご支援ご協力のほどよろしくお願い致します。



ビジネスコミュニケーション学科の近況

ビジネスコミュニケーション学科長 芥 川 一 則

本年度から学科が「ビジネスコミュニケーション学科」に改組されました。改組の目的でもある「ビジネスへのグローバル化への対応」を目指し、任期付きではありますが英語が堪能なニェム フー ビン先生と渡辺エリカ先生を採用しました。ビン先生には経営数学入門を渡辺先生にビジネス英語を担当していただきます。全てが英語の授業になる場合もあります。学生の英語力の向上が期待されています。

4月にビジネスコミュニケーション学科へ入学した第1期生は、①社会の問題に密着した問題を取り上げる授業、②英語サークルなどの課外活動では外部機関との交流、③受験勉強がないため長期の休みを利用した留学や外部コンテストなどへの参加の機会、が評価されていました。これからも高専の特徴を活かした教育を推進してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

今年度卒業をむかえる36名の内、進学希望者が21名、就職希望者15名となっています。例年に比べると就職希望者の割合が高くなっていますが、公務員希望の3名の学生を除けば就職は全員内定しています。進学希望者はこれから編入学試験となります。時間を惜しんで勉学に励んでおりますので健闘を期待してやみません。

各専攻、各コースの近況 [専攻科]



産業技術システム工学専攻の近況

産業技術システム工学専攻長 原 田 正 光

平成27年度で復興人材育成事業が終了しましたが、専攻科では復興人材育成特別プログラムとして、再生可能エネルギー、原子力安全、減災の3分野で活躍できる人材育成のための教育を継続しています。

機械工学、電気電子工学、応用化学、土木工学、経営学の各分野の主要な専門知識としては例えば原子力安全の知識は必要ないかもしれません。しかし、原子力安全分野では、例えば機械工学や土木工学の知識で解決できる課題があるわけです。同様に、情報、環境、農業などの分野でも、例えば電気電子工学、応用化学、経営学などの知識で解決できる課題があります。私たちが直面する産業技術課題は、各分野の専門家がそれぞれ解決すべき課題が集積した状態で存在しているものがほとんどです。個々の専門分野以外の課題に対して、培った専門分野の知識や技術を融合・複合させるセンスが求められます。

専攻科では、復興人材育成科目をはじめとして他分野の専門科目を選択履修する、全コース横断のグループで課題設定・課題解決型の取り組みを行うシステムデザイン演習を経験する、学外で応用課題に触れるインターンシップを経験する、等のカリキュラムを通じて、このようなセンスを身に付けてもらいたいと考えています。



生産・情報システム工学コースの近況

生産・情報システム工学コース長 寺 田 耕 輔

今年度の生産情報システム工学(PI)コースへの入学者は7名で、その内訳は本科機械工学科卒業生が3名、電気工学科は4名です。PIとESコースは、このように機械工学科と電気工学科卒業生が交わり、シナジー効果が期待されています。この夏休みには、専攻科1年生諸君は、国内外でのインターンシップ(企業および大学等)を活発に行っています。学校教育だけでは経験できない良い機会を学生諸君が体験していることがインターンシップ報告書からうかがえます。

ます。

さて、PIコースの2年生は6名です。彼らの修了後の進路は、就職希望者が3名、大学院進学希望者が3名です。今年度の就活は、新聞やTV等で報道されていますように、昨年度のような“8月以降から採用面接開始”という超スローペースのスケジュールではなくなりました。昨年度とは真逆になったと言っても良いくらいで、今年度は春先から早期短期決戦の様相でしたが、就活は全国的に非常に好調に進んでいます。当コースの3名も日本テキサス・インスツルメンツ株式会社、株式会社クレハ、アルパイン株式会社等に内定しています。他方の大学院進学希望者3名のうち、1名は長岡技術科学大学大学院に推薦入試ですでに合格し、あとの2名はこれから大学院入学試験を受験する予定です。

以上のように、積極果敢な活動を展開しており、今後とも全力を挙げて精進してまいります。



エネルギーシステム工学コースの近況

エネルギーシステム工学コース長 伊 藤 淳

今年はコースとして修了生を送り出す最初の年になります。在籍している2年生12名はすべて修了後の進路も決まり、修了に向けて日々熱心に研究活動に励んでいるところです。また、1年生7名(機械工学科卒業1名、電気工学科卒業6名)は、企業におけるインターンシップを体験することで、社会の厳しさを学び、社会人になるための心構えを得ることができたと思います。

本コースでは、エネルギーの有効活用や再生可能エネルギーの積極的な活用などを中心に学習し、これに関連する研究を行っています。その研究成果を学会等で積極的に報告しております。今年度はドイツで開催された国際会議における発表や、優秀論文発表賞を受賞するなど、目覚ましい活躍をしています。

今後とも多くの学生が広い視野を持ち自身の可能性を高めていけるよう願っています。

各専攻、各コースの近況 [専攻科]



化学・バイオ工学コースの近況

化学・バイオ工学コース長 車 田 研 一

昨年度末をもち専攻科発足時からの物質・環境システム工学専攻から産業技術システム工学専攻化学・バイオ工学コースへの移行が完了した。現在17名が現在在籍して勉学・研究に取り組んでいる。来春修了見込11名は8名が大学院修士課程、3名が複数の業種への就職を予定して各人努力の最中である。1年生6名もいわき市役所・日本原子力研究開発機構・トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム「地域人材コース」での実習を経て多くを学んだことと思う。専攻科生は弱冠^{はたち}二十歳あまりだが、たえず高専のなかにいれば最年長学生として遇されるという状態に馴れすぎるきらいもある。ぜひさまざまな機関で先輩がたにきびしく叱咤され、坦懐に初心を想いおこしてほしい。社会が複雑化するなか、高等教育課程修了者に暗黙裡に求められる思考能力水準（地頭ハードル）は業界をとわず、たえず上がる。高度成長期からその後の産業高度化時代までつねに産業界から高い評価と期待をうけつづけてきたという高専の矜持を当面の自己鼓舞のための心の支えとすることは賢明だが、いっぽうで、社会の構造変化をシビアにうけとめ、我々教員自身の自己研鑽が最重要と痛感する。常に慢心は禁物である。



社会環境システム工学コースの近況

社会環境システム工学コース長 齊 藤 充 弘

改組より2年目を迎え、1年生3名、2年生6名のメンバーにより、コースとしての本格的な教育・研究がスタートしました。2年生の進路も順調に決定しており、4名が就職先を決定しています。その内訳は、市および国の公務員、建設系のコンサルタント企業および公益財団法人です。そのうち2名は女性であり、近年の「ドボジョ」、「リケジョ」の台頭に劣らず、その活躍が期待されます。また、2名が国立大学の大学院に進学する予定です。以上6名は、すべて復興人材育成特別プログラムの履修生であり、この先進む地域や立場は異なっても、日本の復興の担い手として活躍していくこれからが楽しみです。

1年生は、前期の学習を経て夏季休業中にインターンシップに行ってきました。行き先は、建設系のコンサルタント企業や一般財団法人、国立の技術研究所や市役所などです。複数箇所での実習を通して、現場や専門分野の違いに戸惑いながらも、それぞれの専門を柱とする業務を目の当たりにして、日頃の学習内容を深く理解することができたり、その重要さを再認識したりすることができたという感想を述べています。

進路決定にむけた活動やインターンシップを通して得た経験を活力に変えて、これより本格化する研究活動にみんなで協力して取り組むことが期待されます。



ビジネスコミュニケーション学専攻、 ビジネスコミュニケーション学コースの近況

ビジネスコミュニケーション学専攻長 湯 川 崇
ビジネスコミュニケーション学コース長

今年度ビジネスコミュニケーション学専攻には1年生が6名（男子1名、女子5名）、2年生が9名（男性2名、女子7名）在籍しています。

1年生で実施されるインターンシップでは、4名がフランスのIUT（技術短期大学部）、1名がトビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム「地域人材コース」の支援を受けて中国で、1名がいわき市内で研修をしています。高専で学んだ語学力やコミュニケーション力を生かした海外での文化体験や、社会人としての経験を通じて成長することを期待しています。

2年生の進路は全員就職希望で、現在5名が民間企業から内定をいただいています。

2年生の後期は修了に向けてこれまで行ってきた特別研究をまとめて論文を執筆する時期になります。昨年度から独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の学位の授与に係る特例適用の認定を受けていますので、書類の提出のみで卒業時に学士の学位を取得できるようになっています。

専攻科は2年間という短い期間ではありますが、全員が修了後の進路目標を達成できるよう、教員一同全力で支援していきたいと考えております。

本校では、主に4年生と専攻科1年生に、校外実習・実務研修などの科目を設定し、企業などの協力を得て、インターンシップを実施しています。校外、実務の場に身を置くことで、技術者の役割を認識すること、学校で習得している知識が実社会でどのように活用されているかをそれぞれの学生が理解することを目的としています。

本校では、こうした経験を今後の学習に活かし、社会人として必要とされる知識などを卒業までに身につけるように、教育と指導を行っています。

今までで一番充実した5日間

機械工学科4年 大河原 拓

私は8月29日～9月2日に、東北大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻吉田研究室にてインターンシップに行ってきました。本研修では、大学院生の方と一緒に「車輪型ロボットの走行性能に関する砂場実験」とその解析に取り組みました。なぜ砂場かというと、月面は砂で覆われているからです。この実験の目的は月・惑星探査ロボットに使われる車輪の力学的特性を明らかにすることです。

初日は、砂地を走行する車輪に作用する砂からの反力・トルクを計測する実験を行いました。この実験では、力覚センサを車輪に取り付けて車輪を走行させることで、車軸に加わる三方向の力とトルクを測定しました。

2日目からはエクセルを用いて初日に測定した実験結果を解析する作業を行いました。測定した値を用いて車軸



が受けた力、トルクと車輪の回転角の時間履歴をグラフにまとめました。この時、エクセルの操作に慣れておらず、研究室の方々の手を煩わせてし

まいしました。エクセルをはじめとしたソフトウェアの操作は、これからの仕事においてどこへ行っても使うことになるので基本的な操作はマスターしておかなければならないと実感しました。

最終日には、イタリアの方の研究発表（質疑応答含め全て英語）を聞きました。私は聞き覚えがある単語が少しあると感じただけで全く発表についていけませんでしたが、担当の院生の方（沖縄高専専攻科出身）は質疑応答の際に発表者と教員の方々と英語で討論をしていました。高専生は英語が出来ないイメージがありましたが、努力すればここまで語学力を身につけることができるものなのだと感じました。それと同時に、私が研究者になるためには討論できる程の英語力（特に専門分野の単語や基礎文法）が必須だということを実感しました。

この5日間は宇宙やロボットといった初めての分野のため、覚えることがたくさんあり大変でした。しかし、活動時間を何時間も延長するぐらい没頭できるものでした。今回の経験を活かして受験、卒業研究を乗り越えたいです。



e.TEAM ANAでのインターンシップを通して

機械工学科4年 高野 円香



私は5日間、e.TEAM ANAのインターンシップに参加させていただきました。

e.TEAM ANAとは、ANAグループの全フライトの総合品質を追

求する整備部門7社の総称です。インターンシップの内容としては、整備部門7社の中の4社の職場見学、実習を行いました。

私の中で整備士は「機体の整備」というイメージが強かったのですが、職場見学を通して訓練サポート部門があることを初めて知りました。訓練サポート部門とは、パイロットの訓練で使用するフライトシミュレータの整備やキャビンアテンダントの訓練で使用するモックアップの整備などを行う部門のことです。機体整備の知識に加え、パイロット同様飛ぶことについての知識を得ることもできることが強く印象に残りました。

実習では、実際にマニュアルを読みながら翼やランディ

ングギア、客室、エンジンなどの整備を体験しました。エンジンのファンブレードの取り外し、取り付けでは特に慎重な作業が求められ、責任の重さを実感しました。目で見るだけではなく実際に体験することで、どの整備も決められた時間の中での正確な作業とチームワークが重要であることを改めて実感しました。どの会社の整備士の方々もおっしゃっていた「責任重大な仕事だけど、やりがいがある」という言葉が印象的でした。

今回のインターンシップを通して、どのような仕事をしているかはもちろん、コミュニケーションの大切さや、今学んでいることが将来どのように生かされるのかなどを実感することができました。また、他高専の学生との交流もでき、多くのことを学びながら楽しく過ごすことができた貴重な5日間でした。この経験を今後の勉学や進路の選択に生かしていきたいと思います。



海外インターンシップ研修で経験したこと

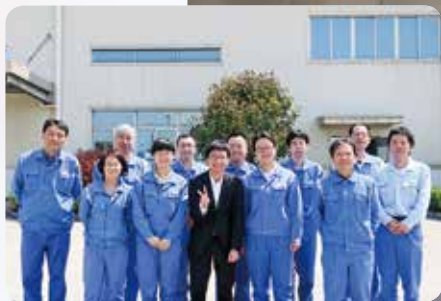
電気工学科4年 原 守男

私は、中国の明電舎（杭州）電気系統有限公司でインターンシップ研修をさせていただきました。

明電舎（杭州）電気系統有限公司は、主にPMモータ、インバータ、無人搬送車を製造している会社で、このたびは2週間ほど各製造部や生産管理部にて研修させていただきました。

PMモータに関する研修では、まず加工から組み立てまでの製造ラインを見学させていただきました。そこで、たくさんある製造工程の中で1つでもミスを行ってしまうと1つの製品全体が不良品になってしまうということを学びました。

無人搬送車に関する研修では、まず無人搬送車の概要や原理、物流システムについて学びました。その研修で、人の外部制御無しで何かを操作するためには電



気制御が重要である、ということを知りました。自分は、ロボットなどの制御に興味があったので、とても参考になりました。

インバータの研修では、まずインバータについて学びました。自分は今まで、インバータなどのパワーエレクトロニクスの分野の知識はありませんでした。ですが、働いている方々の説明や、実物のインバータの見学によってこの分野に興味をもちました。

今回の研修で、私は本当にたくさんのことを学ぶことができました。まず、中国に初めて行き、文化の違いや言葉の壁を体験することができ、とても貴重な体験をさせていただきました。実習では、電気以外の分野についても触れ、電気の知識だけでなく他の分野の知識も必要であるということを知りました。今回の研修で感じたのは、今までの授業などで学んだ内容は、実際の現場でも役に立つということです。海外でしか経験できない体験をさせていただき、社員の方たちから様々なアドバイスをいただきとても充実した研修をさせていただきました。この経験を、今後の生活にも生かしていきたいです。

会津オリンパス株式会社インターンシップ報告

電気工学科4年 江坂 壮平

今回、私は会津オリンパス株式会社で10日間の実習をさせていただきました。

会津オリンパス株式会社は主に内視鏡とその洗浄機を製造している企業です。会津オリンパス株式会社は製品の部品を自社生産しており、その部品を作る加工機械も自社で設計しています。この度は、その加工機械を設計しているYKグループというところにお世話になりました。

実習の内容としては、PLCというプログラムを書き込み、機械を制御する機器を用いたシーケンス実習と、工場の稼働機械の保全実習を行わせていただきました。

初日の午前中に職場紹介とPLCについての簡単な説明を受け、午後にはプログラム実習を始めました。PLCのプログラミングはラダー言語というものを使用していました。最初は1つの問題に1日かけてプログラミングをしていましたが、7日目には2時間程度でプログラミングを行えるよ



うになりました。

8日目に工場の稼働機械の保全実習を行いました。複合加工機と呼ばれる加工機械のロボットコントローラであるE-conという部品



が製造中止品になっています。そのため、その部品が壊れてしまうと加工機が動かなくなり、工場の生産が止まってしまうという事態が発生します。それを未然に防ぐために、E-conをS-conという新しい部品に交換する作業を行いました。また、E-conとS-conではそれぞれを機械と接続するコネクタという部品の形状が異なるため、互換ケーブルの作成も行いました。

今回のインターンシップを通して私は、「学校で学んでいる知識・技術は基礎でしかない」ということを実感しました。そして、大切なのは「仕事に必要な知識・技術を応用させ、仕事を遂行する能力である」ということも実感しました。この10日間の実習をこれからの高専生活に活かしていきたいです。

インターンシップから学んだこと

物質工学科4年 櫛田 拳



私は、8月下旬から約1週間、花王株式会社 栃木研究所でインターンシップを行いました。初日は栃木事業場での主な生産品である、紙おむつ「メリーズ」、生理用品「ロリエ」の生産ラインを見学しました。その後は主に解析科学研究所第一室において、「液体クロマトグラフィーによる医薬部外品有効成分の定量分析」というテーマで実習を行いました。

まず実習前には医薬部外品とは何かについて、また、解析科学研究所第1研究室での業務の一部である薬事解析業務について学びました。薬事解析は、これまで聞いたことのない仕事でしたが、製品を製造・販売するためにはとても重要な仕事でした。

実習ではまず、呈色反応を利用して医薬部外品に含まれている有効成分の確認試験を行いました。サンプルとして2種類の「サクセスシャンプー」を用いて、有効成分が存在していることを確認しました。次に、花王独自の判定

基準が定められている分析法バリデーションに則り、液体クロマトグラフィーを用いた有効成分の定量分析を行いました。これらの実験結果をまとめ、最終日には社内で成果発表会を行いました。

インターンシップでは、会社だけでなく普段の学校生活においても自ら積極的に活動しようとする姿勢がとても大事であるということを学びました。また、研究を行う上では常に何事にも疑問を持って、自問自答を繰り返すことが新しい製品の開発に繋がることを知りました。さらに、会社では学校での実験とは異なり、一つ一つの確認試験において精度の高い結果を出す必要があるため、非常に高い技術力が求められていると感じました。この経験を今後の学校生活に生かし、企業から求められる人材になれるよう頑張りたいと思います。

お忙しい中、受け入れて下さった解析科学研究所第1研究室の皆様には本当に感謝しています。ありがとうございました。



実習でわかったこと

物質工学科4年 佐藤 匠

化学は、現代の生活に密接にかかわっています。建物も日常生活品もすべて何らかの物質からできています。実体のある製品を作っている会社ならば、どこに行っても化学の知識を活かせると考えた私は今回、自転車部品・釣具を作っている「株式会社シマノ」のインターンシップに行ってきました。

実習先では、鍛造、切削、焼入れ、表面処理をメインに作業・講習を受けました。機械に関する工程が多かったものの、金属の表面処理ではアルマイトが行われていました。アルマイトとは、アルミニウムを陽極として電気分解をする化学的な処理です。表面のアルミニウムは酸化され、酸化アルミニウムになります。素材の表面を変化させることで、物性を改質することに、化学が活かされていました。

講習の際に「工場内で使われている薬品一覧」を見せてもらう機会がありました。そこ



には、高校化学の教科書に載っている物質から有機化学で習った物質まで（もちろん名前すら知らないものも）多くの物質が名を連ねていました。

製造に関わる物質の発注・管理は言うに及ばず、化学の知識が活用できる場所はいくつも見つけられました。

製品が出来上がっていく現場を見学できたことも勉強になりました。アルマイトでは、前処理に脱脂、化学研摩、デスマットがあり、後処理には封孔がありました。中心となる工程の前後に付随するこのような小さな処理については、今まであまり考えたことがありませんでした。今回の実習はとても良い経験になりました。



「水事業」縁の下の力持ち

建設環境工学科4年 荒川 和輝

私は今回、水i n g株式会社のインターンシップに参加させていただきました。私は以前から現場監督の業務内容や、プラント事業などについて興味をもっていました。また授業では知ることのできない、現場の雰囲気や環境、そして自分たちが学んでいる学問が実際にどのような形で社会に活かされているのかを知りたいと思っていました。そこでそれらについてさらに理解を深めたいと思い、水i n g株式会社のインターンシップに参加することを希望しました。

私がインターンシップにおいて実習したのは、山形県の尾花沢汚泥処理センターという、下水が通っていない地域の汚水を回収して処理する施設でした。実習を受けるうえでこの施設には特徴があることがわかりました。雪が多い



地域であるため屋根が多く傾斜を持っていたり、タンクから薬品が漏れて地域の環境に影響を与えないように、薬品を扱っているタンクの周りにはコンクリートの塀が設置され

ていました。このようなことから、建築物内にあるすべての設備にはすべて意図があり、無駄なものは一つもないということがわかりました。また、現場の責任者の方から、様々な話を聞くことができ、建設業において大切なことは、建設の技術に加え安全管理、周りへの環境についての配慮や知識も重要であると知りました。また、そのため企業努力を行っていることを感じました。

今回のインターンシップを通じて私は、現場監督とは施工管理、工程管理、品質管理、原価管理と管理内容が多く大変であるが、ものを作り上げる喜び、利用者からの感謝など大変な分喜びも多い仕事だということがわかりました。今回のインターンシップで学んだことを糧とし、今後の学校生活を大切にしたいと思います。

終わりに、今回のインターンシップを企画していただいた水i n g株式会社の皆さま、本当にありがとうございました。



目指せ！“けんせつ小町”

建設環境工学科4年 谷口 夢実

私は、株式会社鴻池組のインターンシップに参加させていただきました。理由としては、将来は建設現場に立って働きたいと考えていたことと、実際ゼネコンの現場ではどのような業務を行っているのかを深く知りたいと思ったからです。私が配属された現場は兵庫県西宮市の「阪神鳴尾」工事事務所という、女性技術者さんが活躍している現場でした。まだまだゼネコンの現場では、女性技術者は少ないとお聞きしたことがありますが、活躍されている女性技術者の方と話すことは、大変刺激を受けることができました。



阪神鳴尾工事事務所の事業は、踏切によって渋滞が慢性的に起きているため、鉄道を高架化することにより鉄道と道路を立体交差させ、渋滞を減らして道路交



通の円滑化を図るというものでした。この事業は10年間にわたる長期の工事でしたが来年の3月に竣工予定のため、多くの真新しい構造物を見せて頂くことができました。私が体験した業務は社員の方と安全パトロールを行ったり、出来形確認のための写真撮影、測量、線路のレールの目印をつけるために墨だし、さらに、鴻池組が近くで施工している現場にも行かせていただきました。構造物を造るには、大変多くの人によってこなされていることを知りました。また、安全が何よりも重要なことも体感しました。暑い中外で作業するのは本当に大変でしたが現場の雰囲気はいつも明るく、いろんな技術者さんとコミュニケーションをとりながら楽しそうに作業していました。女性技術者も男性技術者と同等に仕事をしていて本当にかっこいいなと感じました。建設業、特にゼネコンは辛いというイメージがありますが、社員の方が「辛いことも多いが自分の手で建設物を作り上げていく感動を味わえる喜びは大きい」と話していることを聞き、私はゼネコンで働くことも視野に入れようと思いました。

最後に、このような貴重な機会を与えてくれた現場の皆さん、東北から関西の現場を探してくれた東北支社の皆さん、先生方に「ありがとう」を言いたいと思います。

「進路を見据えて」 コミュニケーション情報学科4年 神長 沙也加

9月中旬、「株式会社加納グラフィックス」というウェブサイト制作をメインに行う会社で実習させて頂きました。テーマを「ウェブ制作とデザインの基礎」として丁寧に指導頂き、実際の業務を拝見させて頂くこともできました。



今回の実習で最初に行ったのは、名刺の制作です。自分で案を20種類ほど紙に書き出し、その後Photoshopを使用して数種類作成しました。Photoshopは学校で数回程しか使ったことがありませんでしたが、実際にデザインの現場で使用している方から使い方の基礎やデザインの構想中に使える裏技などを教えて頂き、本当によい勉強になりました。

次に行ったのは、実際にある会社のホームページデザインです。今回の実習テーマは「デザインの基礎」なので、実際に言語を使ってサイトを構築するのではなく、Photoshopを使ったワイヤーフレーム(サイトのデザインを下書きしたもの)を作成しました。ワイヤーフレーム作成は3日間行いましたが、ワイヤーフレームを作成する上での基礎知識やおすすめの資料を実際の現場で活躍する方から教えて頂くなど、貴重な体験をすることができました。

今回の実習では、社長さんやデザインの専門学校を卒業した社員さんとお話する機会を多く設けて頂き、実際のウェブ制作の流れやデザイン会社の裏話など、今まで疑問に思っていた様々なことをお聞きしました。また、東京のデザイン会社といわきのデザイン会社の違い、地元就職と都心に近いところで仕事することの違いなど、普段の学校生活の中では聞けない多くのことをお話しして下さいました。今までは実際にデザインの現場で働く方からお話を伺える機会が無く、身近にデザイン系の仕事をしている方もいなかったので、自分にとって本当に充実した時間を過ごすことができました。

今回の実習で、これから学校生活の中で自分が何を勉強していくべきかがより明確になり、高専卒業後の進路についてもより深く考えることが出来ました。実習終了後は、社員の方におすすめして頂いた本を購入し、Photoshopをダウンロードして制作を続けています。私は今4年生であり、進路を決定するまで時間はそう多くは残されていませんが、だからこそ、今回の実習で学んだ様々なことを活かし、今の自分にできることを一生懸命続けていこうと思います。

東京ガスサマーインターンシップに参加して

コミュニケーション情報学科4年 四家 亜希子

私は8月22日から5日間、東京ガス株式会社のインターンシップに参加してきました。私は、お客様にガスを届けるためのガス管の施工・管理を主な業務とする導管部門の現場を見学させていただきました。5日間のうちの3日間が現場見学で、1日目は公道の地下を通るガス管の施工・管理を行う導管ネットワークセンターと呼ばれる部署を見学し、大都会を巡るガス管やガスの圧力を変えるガバナという設備を見学しました。たくさんの車や人が行き交う都会の景色に溶け込んでしまいあまり目立たないけれど、この設備がこの都会を動かしているのかと思うととても誇らしい気持ちになりました。

2日目はお客様の敷地内を通るガス管を取り扱う設備保安センターという部署を見学しました。そこではメトロ点検と呼ばれる、ビルなど商業施設内のガス管に異常がないか点検する作業の現場に同行させて頂き、地震などで揺れを感知したら自動でガスを止める感震器が正常に作動するかなどの点検作業を



見学しました。暑い中、施設の利用者の安全を守るために働く姿にとっても感動して涙が出そうになりました。そのビルのスーパーで買い物する人たちを見て、こんな風に安心して買い物できるのも、東京ガスのような見えないところで住民の安全を確保してくれている人たちあってこそだなと感じました。見学最終日はガスライト24という、ガス漏れなど緊急の対応が必要ときに通報を受けて駆け付け修復作業を行う部署を見学しました。過去には実際にガス漏れが原因で死亡事故などが起きたこともあり、常に危険と隣り合わせの状況の中、昼夜問わず通報があればすぐ駆けつけろという姿勢が本当にかっこよかったです。このインターンシップに参加する前は導管と聞いてあまりパツとしたイメージがなかったのですが、こんなにも私たちを支えてくれていて、奥が深いものだったと知れて、本当に貴重な経験ができたインターンシップになりました。



インターンシップを終えて

生産・情報システム工学コース1年 櫻井 健太

私は郡山市にあるソニーエナジー・デバイス株式会社に2週間インターンシップに参加しました。この会社は、スマートフォンや電動工具に使われているリチウムイオン二次電池を作成しています。私は、自分がいつも使っている電池がどのように作られているのか興味を持ったことや、機械工学だった私があまり触れてこなかった電池という分野にあえて触れることで、これからの学校生活や就職の糧にしたいという理由から、この会社のインターンシップに参加しようと思いました。

リチウムイオン二次電池は、正極板と負極板とその2つの板の間に挟むセパレータの合計3つの板を巻くことで作成されています。この巻く作業を行うのに、素子巻取り装置という機械を使用します。私は今回、素子巻取り装置を構成するユニットの3Dモデリングを行いました。この仕事をしていく中で、チー



ムメンバーにわかりやすく伝えられる設計をすることの重要さや、実際に使用するユーザーが使いやすい設計を行うことの難しさを体感することができました。これらを体感して、3D設計に一番大切なのは「思いやりの心」なのではないかと感じました。また、私は本科生時のインターンシップは工場勤務で一日中立って仕事をを行いました。それに対して今回のインターンシップでは、基本的にデスクワークでした。この2種類の仕事を就職までに体験できたのは、私にとって貴重な経験だったと思います。

今回のインターンシップでの経験を、今後の学校生活や就職に生かしていきたいと思います。最後に、お忙しい中インターンシップを受け入れてくださったソニーエナジー・デバイス株式会社の皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

今回のインターンシップでの経験を、今後の学校生活や就職に生かしていきたいと思います。最後に、お忙しい中インターンシップを受け入れてくださったソニーエナジー・デバイス株式会社の皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

今回のインターンシップでの経験を、今後の学校生活や就職に生かしていきたいと思います。最後に、お忙しい中インターンシップを受け入れてくださったソニーエナジー・デバイス株式会社の皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。



インターンシップを終えて

エネルギーシステム工学コース1年 森下 英樹



私は福島県須賀川市にある日本工営株式会社福島事業所にて10日間のインターンシップを行いました。日本工営株式会社福島事業所は水力発電の主要製品などの電気を支えるものづくりやダムを管理する装置といった災害を防ぐものづくりを行っています。私は去年まで小水力発電の研究を行っており、実際の現場ではどのような方法で製造されているのか、どのような設計なのか、自分がしてきたことに意味があるのか興味がありこの会社へのインターンシップを希望しました。

この会社は様々な部署に分かれておりさらにその部署もいくつかのグループに分けられます。私は機電システム部製造グループにお世話になりました。機電システム部とは設計や製作、据付工事までの一貫したエンジニアリングおよび製品を国内外に提供する部門となっています。その中の製造グループとは水車や発電機部品加工及び組立調整や製品設備及び計測器の維持管理等の業務を行っています。



インターンシップでは製造している水車についてやCAD・CAMといったソフトを用いてシミュレーションを行い知識を身に付けた後、実際の業務に参加しました。業務体験では機器の塗装作業や各部品の寸法等の確認、発送準備の手伝い、加工機器や溶接の見学を行いました。その際にどのような作業をするにも資格が必要となること、各作業が重要であり注意して作業しなければならないことを知ることができました。その他にも栃木の塩原ダム発電所や福島空港のメガソーラーの見学を行いました。

10日間のインターンシップを通じて実際の業務を体験できその企業について知ることができ、今後の進路選択の参考にすることができました。この経験を生かして来年の就職活動に向けて努力していきたいと思います。

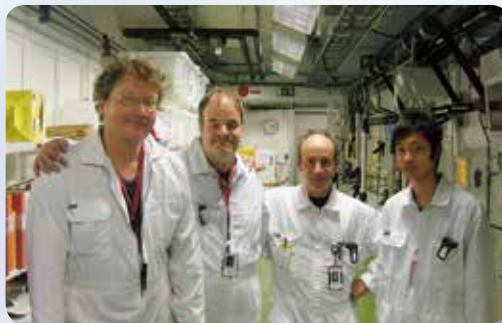
10日間のインターンシップを通じて実際の業務を体験できその企業について知ることができ、今後の進路選択の参考にすることができました。この経験を生かして来年の就職活動に向けて努力していきたいと思います。



インターンシップを通じて学んだこと 化学・バイオ工学コース1年 谷地 起拓

私はスウェーデンのスタズビックという会社でインターンシップを行いました。スタズビックは放射性廃棄物の処理や研究を中心に行っている会社で、原子力分野や分析技術について学ぶことを目的として一か月間実習を行いました。ここでは原子力関連施設の見学や、実際に行われている研究に関

連した模擬実験などを行いました。スウェーデンでは皆スウェーデン語のほかに英語が喋れるので、インターンシップ中の会話はすべて英語で行いました。実験の説明から実際に行うまで、すべてのコミュニケーションを英語で行う



のは大変でしたが、新鮮でいい経験ができたと思います。また、実験などを通して、原子力関連の研究や分析技術に触れたりすることで知見を広め



ることができました。

私は今まで海外に行ったことはなかったため今回が初めての海外生活となりました。初めての土地で英語での生活ということで最初はとても不安でしたが、ホームステイ先のホストファミリーや会社の方々が優しく接してくれ、毎日充実した日々を送ることができ

ました。今回の海外インターンシップでは、日本ではできないような体験を多くすることができ刺激的な日々を送ることができました。このインターンシップを通して、勉強だけでなく様々な面で多くのことを学ぶことができ、自分の物事に対する視野を広げることができたと思います。この経験を活かし今後の学生生活をより良いものにしていきたいと思っています。



インターンシップを通じて学んだこと 社会環境システム工学コース1年 山部 裕雅

私は8月29日から9月2日の5日間、東京水道サービス株式会社のインターンシップに参加してきました。東京水道サービス株式会社では安全でおいしい水を安定的に供給する役割を担っています。業務内容としては、水道水源の保全管理業務、浄水場・給水所の運転管理業務、管理の設計・工事監督・維持管理業務、給水装置業務などの「水源から蛇口まで」に関わる業務を行っています。今回のインターンシップでは立川サービスステーションの見学、排水小管の設計実務演習、多摩川取水堰見学、羽村導水ポンプ所見学、千ヶ瀬第二浄水所見学、管路診断業務、配管OJTフィールド演習やバルブ操作、断水作業、消火栓に



よる排水作業などを体験してきました。

排水小管の設計実務演習では実際に使用している図面を使い、コンサルタント会社から送られてきた図面

に使用されている管路の種類や長さにより誤りがないかのチェックなどを行いました。多摩川取水堰見学では、前日の雨による川の増水により取り外した投渡堰



を新たに作り直す作業を見ることができました。千ヶ瀬浄水所では、施設の概要説明の後に浄化槽内の洗浄である逆流洗浄を行っている様子を見学してきました。管路診断業務では漏水を発見するのに使用する機材を使い、通常の管路に水が流れている時の音と漏水が起きている管路に水が流れている時の音の聞き分けなどを行いました。管路の状況によって素人が聞いたらまったく同じ音にしか聞こえないような箇所もあり、熟練の経験が必要であることを感じました。今回のインターンシップで水道水ができるまでの過程を以前より深く理解することができ、同時に水が安定的に供給される重要性を再確認することができました。

中国でのインターンシップを終えて

ビジネスコミュニケーション学コース1年 佐藤 文

私は8月下旬から10月中旬まで、トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム「地域人材コース」の留学生として、中国遼寧省大連市でインターンシップと短期留学を実施しました。始めにAlpine of China, Research and Development Center (以下、アルパイン大連)にて3週間のインターンシップをさせていただき、次に大連東軟信息学院にて約1ヶ月の語学留学を行いました。

アルパイン大連は、いわき市に本社を構えるアルパイン株式会社が、中国・大連市に持つ開発拠点です。研修では主に、割り当てられたテストケースに沿って、製品が要求された性能を満たしているか検査する業務を体験させていただきました。世界中の様々な部門で働く人々が連携しあい、品質向上のために働く姿に感銘を受けました。また、研修を通して、規模の大小に関わらずどんな仕事も大切な

役割を持っていることを実感し、働く上でのやりがいを体験することができました。

大連東軟信息学院では、ロシアや韓国からの留学生と共に



中国語を学習しました。多国籍の学生との交流を通して、日本でいかに意思表示をせずに過ぎていたかを実感しました。当然のことではありますが、日本にいれば「常識」や「暗黙の了解」として言葉にしなくとも伝わることも、国が変われば伝わりません。わたしは中国での滞在中、疑問をそのままにしまったり、自分の考えを伝えなかったりしたことで後悔したことが幾度もありました。留学を通して、自分の考えを持つこと、そして意思表示することの重要性を痛感しました。

今回のインターンシップを通して、異文化圏で生活すること、働くことの難しさややりがいを体験することができました。進路を考える上でもとても勉強になる、貴重な経験となりました。発表やレポートの形で研修についてまとめ、今後に活かしていきたいと思います。ご協力いただきました多くの方々に、この場を借りて御礼申し上げます。



◆インターンシップ協力企業等一覧

ご協力に感謝申し上げます

(種類別にアイウエオ順)

〈企業〉

ANAラインメンテナンステクノクス(株)、DIC(株)、(株)JALエンジニアリング、JFEスチール(株)、(株)jig. jp、JXエネルギー(株)、Kozo Co., Ltd.(株)NTT東日本-東北(株)NTTファシリティーズ、People Worldwide Co., Ltd. Studsvik、会津オリンパス(株)、アクアエンジニアリング(株)、旭化成(株)、あざみ野幼稚園、あすか製薬(株)、アステラスファーマテック(株)、(株)東コンサルタント、アトックス(株)、あぶくま信用金庫、アルパイン(株)、アルパイン技研(株)、アルパインマニュファクチャリング(株)、(株)アルピオン、出光興産(株)、大阪シーリング印刷(株)、大阪ガス(株)、オートリブ(株)、オリエンタル白石(株)、花王(株)、カゴメ(株)、鹿島ブックセンター、河井順行税理士事務所、川研ファインケミカル(株)、キャノン(株)、(株)クレオ、(株)クレハ、(株)クレハ環境、玄葉光一郎事務所、(株)江東微生物研究所、(株)鴻池組、五洋建設(株)、堺化学工業(株)、三進金属工業(株)、サントリーホールディングス(株)、(株)サンフレックス永谷園、(株)シグマ、(株)資生堂、(株)シマノ、清水建設(株)、(株)常磐エンジニアリング、常磐開発(株)、常磐共同火力(株)、(株)常磐製作所、新日鐵住金(株)、水ing(株)、星光PMC(株)、セイコーエプソン(株)、特許業務法人創成国際特許事務所、曾田香料(株)、ソニーエナジーデバイス(株)、ソニーコーポレートサービス(株)、第一三共ケミカルファーマ(株)、ダイキンエアテクノ(株)、ダイキン工業(株)、(株)タダノ、田中貴金属グループTANAKAホールディングス(株)、地質基礎工業(株)、

テバ製薬(株)、(株)テムロ、東京ガス(株)、東京水道サービス(株)、東洋システム(株)、トーアエイヨー(株)、中村会計事務所、西尾レントオール(株)、日栄地質測量設計(株)、日東電工(株)、日本ケミコン(株)、日本工営(株)、(株)日本色材工業研究所、日本たばこ産業(株)、日本テキサス・インスツルメンツ・セミコンダクター(株)、(株)日本ビーエス、長谷川体育施設(株)、(株)ハニーズ、東日本高速道路(株)、(株)東日本建設コンサルタント、日立化成(株)、(株)日の出製作所、ひまわり信用金庫、福浜大一建設(株)、(株)富士通エフサス、(株)ふたば、フタバコンサルタント(株)、古河電池(株)、前田建設工業(株)、(株)マイスターエンジニアリング、三井共同建設コンサルタント(株)、三菱地所コミュニティ(株)、三菱電機ビルテクノサービス(株)、(株)ミライト、村田機械(株)、ユニオン建設(株)、六興電気(株)、ローム(株)

〈大学〉

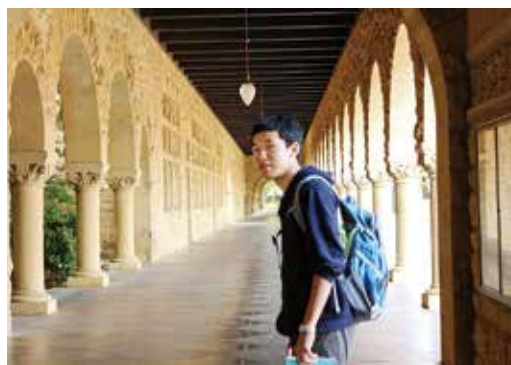
いわき明星大学、京都大学、東北大学、長岡技術科学大学、北陸先端科学技術大学院大学、山梨大学、カレー技術短期大学(フランス)、ヘルシンキ・メトロポリア応用科学大学(フィンランド)、ランス技術短期大学(フランス)、ルアーブル技術短期大学(フランス)

〈官公庁〉

(一財)会津ビューロー、いわき芸術文化交流館いわきアリオス、(一社)いわき観光まちづくりビューロー、いわき市役所、郡山水道管理センター、白河市役所、高萩市役所、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしま、(一財)ふくしま市町村支援機構、国立研究開発法人港湾空港技術研究所、国土交通省東北地方整備局、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

「イノベーションの聖地」を訪ねて

機械工学科 3年 山廻邊 和史



「世界で自分の将来を考える旅」に参加し、アメリカ合衆国カリフォルニア州のシリコンバレーと呼ばれる地域に8日間滞在した。現地の企業で働く方や起業家、政府関係者やアーティストなどの方々とセッションを行い、また高校生や大学生と交流した。

私は、何故シリコンバレーは世界の先端技術地域と成り得たのか、他の地域との違いは何処にあるのか、について知りたいと思っていた。今回実際に訪れ、そこに暮らす人々との交流を通して、要因を考えてみた。

シリコンバレーには、エコシステムというものがある。これは、投資を受けた起業家がメンター、アクセラレータと呼ばれる人々から支援され成功したのちに、今度は自分が投資家となる循環構造のことを指す。あるセッションで“Tolerance for failure(失敗に寛容であれ)”という言葉聞いた。これは、失敗してもそこから得た経験を評価すべきだ、という考えであるらしく、このエコシステムの特徴をよく表す言葉だと感じた。シリコンバレーでは、挑戦しない事よりも挑戦した上で失敗した事の方が評価される土壌があるため、アイデアはビジネスと成り易く、市場の中でより良いものが生み出されていく。

また、シリコンバレーに限った事ではないが、アメリカには言語や宗教などの異なる非常に多種多様な人々が集まっている。その中で様々な価値観が許容され、互いに影響を与え合っていることにより、革新的なアイデアが生まれるのではないだろうか。

今回、日本人も多くシリコンバレーで活躍していることが分かった。彼らの発想、思考は様々な人々との交流や体験によって生み出されているのだと感じた。私も今後積極的に、広く色々な人と交流し、様々な事を経験し、より豊かなアイデアを生み出せるようになりたい。

最後に今回、株式会社東日本不動産様の協賛によりこのプログラムに参加できたことを、申し添えさせていただく。



地域復興支援室の取り組み

社会人特別教育プログラム 「震災復興事業に携わる土木技術者の育成」

本校では、復興人材育成事業の1つとして、企業の従業員等の技術力と知識の向上を図って、地域企業の競争力を高めるとともに、被災者の雇用機会拡大に貢献することを目的に社会人特別教育プログラムを実施している。今年度は、昨年度に引き続き、震災復興事業に携わる土木技術者の育成を目的に5月21、22日には「1級土木施工管理技士を目指す人に」、9月10、11日には「2級土木施工管理技士を目指す人に」と題した講義を行った。

講師は広野町復興企画課課長補佐（元東京都港湾局部長）の佐々木栄三氏と福島高専客員教授の霜田宜久氏の2人の専門家をお願いした。この1～2ヶ月後には実際の試験が行われており、多くの合格者が出たものと期待している。

地域復興支援室では、再生可能エネルギー分野、原子力安全分野においても社会人特別教育プログラムを実施する予定である。



平成28年度 体験入学を終えて

入学者対策専門部会長 根本 昌 樹

平成28年度の体験入学は、8月6日（土）、7日（日）で行いました。両日とも大変な猛暑の中実施されましたが、大きなトラブルもなく無事に終了することが出来ました。今年の参加者は688名と昨年とほぼ同数で、充実した体験入学になりました。今年の各学科のデモ実験のテーマと内容等を紹介します。

機械工学科



「未来を創造する機械工学を知ろう」というテーマで、①機械工作実習紹介 ②身の回りにあるものでモノづくりで簡単に作れるおもちゃの製作を行いました。



電気工学科



「電気の世界へようこそ見る・触る・感じる」というテーマで ①創作実習紹介 ②ものづくり体験コーナー ③国際交流紹介を行いました。



交流コーナー

休憩時間を利用して、①学校紹介 ②入試相談 ③ミニ研究紹介 ④各種ロボコン出場実演を行いました。更に課外活動の紹介も行いました。

物質工学科



「化学への招待ー楽しい化学の実験室ー」というテーマで、「物質工学科」を具体的に楽しくイメージ出来るよう「無電解めっき」のデモ実験を行いました。



建設環境工学科

「災害に強いまちを造る」をテーマに、①体験しよう！液化化マジック ②打音検査に挑戦!!の体験を行いました。



ビジネスコミュニケーション学科



「Reach Your Dreams !」というテーマで、①学科紹介②学べばワカル ビジコミの授業を体験してもらいました。



第53回東北地区高専体育大会結果

秋田大会

■陸上競技 (男子)

学校対抗	
100m	作山 巧次 (5E)
〃	長瀬 大和 (3K)
200m	古和口 廉 (5K)
〃	作山 巧次 (5E)
〃	志賀 智樹 (2E)
400m	古和口 廉 (5K)
〃	鈴木 陵太 (4E)
〃	蛭田 大稀 (2M)
800m	吉田 廉 (2C)
1500m	熊谷 裕平 (3I)
5000m	熊谷 裕平 (3I)
〃	飯澤 将伍 (3K)
〃	遠藤 葵 (2E)
110m H	猪狩周太郎 (1E)
〃	橋本 宏太 (1M)
3000m SC	磯上 健太 (4M)
〃	長谷川勇太 (3E)
〃	根本 優作 (3K)
4×100m R	(作山・鈴木・今野・古和口)
4×400m R	(蛭田・鈴木・作山・古和口)
走高跳	秋野 涼 (2E)
〃	大平 健一 (5E)
棒高跳	尾股 佑亮 (4I)
走幅跳	末永 淳 (1M)
〃	今野 和樹 (4K)
〃	山部 伊織 (3K)
三段跳	今野 和樹 (4K)
〃	大平 健一 (5E)
砲丸投	櫛田 秀人 (4E)
〃	佐藤 将富 (3C)
〃	山田 優多 (1E)
円盤投	櫛田 秀人 (4E)
〃	佐藤 将富 (3C)
やり投	渡邊 隆也 (5C)
〃	渡邊 隆也 (5C)
〃	五十嵐拓海 (2E)

■陸上競技 (女子)

学校対抗	
100m	龍田千里菜 (1BC)
〃	上坪千華子 (2I)
〃	八島すみれ (2I)
800m	武藤 咲希 (3I)
〃	木田亜梨沙 (4K)
4×100m R	(龍田・上坪・武藤・八島)
走幅跳	上坪千華子 (2I)
〃	龍田千里菜 (1BC)
〃	八島すみれ (2I)
円盤投	吉田 葵 (4K)
やり投	大久保 萌 (3I)
〃	尾股 亜純 (1BC)

■バスケットボール (男子)

予選リーグ	福島 70-50 秋田
	福島 96-75 仙台広瀬
決勝トーナメント	福島 74-56 一関
	福島 64-78 仙台名取

■バスケットボール (女子)

	福島 31-79 仙台名取
	福島 27-117 八戸

■卓球 (男子)

団体戦	
シングルス	矢内 智大 (5M)
〃	安齋 正樹 (5K)
〃	谷本 純一 (2E)
〃	山本 崇史 (2K)
〃	松崎 大悟 (2M)
〃	佐々木大翔 (3C)
〃	吉田 孝信 (3E)
〃	加藤 翔 (3E)
ダブルス	加藤 翔 (3E)
〃	谷本 純一 (2E)
〃	安齋 正樹 (5K)
〃	矢内 智大 (5M)

■卓球 (女子)

シングルス	大浦 悠 (5K)
〃	猪狩 菜葉 (4I)
〃	高橋 百花 (3I)
〃	岡部あゆみ (2I)
ダブルス	大浦 悠 (5K)
〃	佐藤 泉 (4I)
〃	高橋 百花 (3I)
〃	岡部あゆみ (2I)

■剣道 (男子)

団体戦	
個人戦	谷 朋亮 (1BC)
〃	小林 遼太 (2E)
〃	向山 翔 (4M)
〃	蛭田 晃介 (3K)
〃	小室 宏貴 (3K)

個人戦	大河原 拓 (4M)
〃	三津間一輝 (3K)

■剣道 (女子)

団体戦	
個人戦	鈴木栄利佳 (1BC)
〃	馬目 由季 (2C)

■テニス (男子)

団体戦	
シングルス	橋本 拓実 (3M)
〃	菊池 洋輝 (5M)
〃	大竹 克也 (5M)
ダブルス	橋本 拓実 (3M)
〃	菊池 洋輝 (5M)
〃	鈴木 喬也 (4C)
〃	蛭田 貴之 (3E)

■テニス (女子)

団体戦	
シングルス	高橋なるみ (5K)
〃	蛭田 愛未 (4C)
〃	高橋 朋世 (3K)
ダブルス	高橋なるみ (5K)
〃	高橋 朋世 (3K)
〃	松田 歩華 (5C)
〃	薄井小百合 (5C)

八戸大会

■バレーボール (男子)

予選リーグ	福島 1-2 仙台名取
	福島 0-2 八戸
	福島 0-2 一関

■バレーボール (女子)

予選リーグ	福島 2-0 仙台広瀬
	福島 2-0 仙台名取
	福島 2-1 八戸
決勝トーナメント	福島 2-1 秋田
	福島 0-2 鶴岡

■柔道

個人戦 (73kg級)	清水 大雅 (3C)
-------------	------------

■硬式野球

トーナメント	福島 5-8 鶴岡
--------	-----------

■サッカー

予選リーグ	福島 2-0 鶴岡
	福島 4-1 仙台広瀬
決勝戦	福島 1-2 八戸

■ソフトテニス (男子)

団体戦	
ダブルス	吉田 翔太 (3K)
〃	山口 敦士 (5M)
〃	高橋 昂太 (4C)
〃	乙山 翔太 (3K)
〃	千葉裕太郎 (4C)
〃	鈴木 湊太 (4K)
〃	松本 恭彦 (5K)
〃	赤津 利也 (5E)

■ソフトテニス (女子)

ダブルス	西内 瑞生 (5K)
〃	坂下和香奈 (5C)
〃	古川 千尋 (3M)
〃	福田 七唯 (2I)
〃	大坊知里子 (2I)
〃	青木麻里乃 (2K)
シングルス	古川 千尋 (3M)
〃	青木麻里乃 (2K)
〃	大坊知里子 (2I)
〃	西内 瑞生 (5K)

■水泳競技 (男子)

学校対抗	
50m自由形	大和田直希 (1E)
〃	山口 聖二 (2I)
100m自由形	大和田直希 (1E)
〃	山口 聖二 (2I)
〃	吉田 光義 (5M)
200m自由形	池田虎太郎 (2I)
〃	四倉 悠介 (5K)
〃	吉田 光義 (5M)
400m自由形	池田虎太郎 (2I)
〃	仲村 誉 (4K)
〃	坂本 亮太 (3M)
800m自由形	仲村 誉 (4K)
〃	坂本 亮太 (3M)
〃	矢澤 啓佑 (1K)
100m背泳ぎ	生方 歩高 (5M)
〃	菊地 啓太 (4C)
〃	今野 裕斗 (2E)
200m背泳ぎ	生方 歩高 (5M)
〃	今野 裕斗 (2E)
100m平泳ぎ	小林 基晃 (2C)
〃	脇田 優希 (1M)
200m平泳ぎ	小林 基晃 (2C)
〃	脇田 優希 (1M)
〃	太田 俊平 (1C)
100mバタフライ	吉田 拓実 (2K)

100mバタフライ	福原 至音 (2C)	第4位
200mバタフライ	吉田 拓実 (2K)	第1位
〃	会田 優斗 (3K)	第6位
200m個人メドレー	佐々木龍之介 (2M)	第1位
〃	福原 至音 (2C)	第3位
〃	菊地 啓太 (4C)	第5位
400mリレー (吉田拓・池田・今野・生方)		第1位
800mリレー (吉田拓・佐々木・池田・生方)		第1位
400mメドレーリレー (生方・福原・吉田拓・池田)		第1位
■水泳 (女子)		
学校対抗		第1位
100m自由形	鈴木 碧 (4I)	第2位
〃	櫻井 友香 (3I)	第3位
200m自由形	鈴木 碧 (4I)	第1位
〃	櫻井 友香 (3I)	第2位
〃	柳内 紅葉 (1BC)	第3位
50m背泳ぎ	河治 早紀 (1BC)	第4位
100m背泳ぎ	河治 早紀 (1BC)	第3位
100m平泳ぎ	渡邊 涼子 (2I)	第3位
〃	柳内 紅葉 (1BC)	第5位
200m平泳ぎ	渡邊 涼子 (2I)	第2位
50mバタフライ	大橋 星花 (5I)	第1位
100mバタフライ	大橋 星花 (5I)	第1位
200mリレー	(櫻井・鈴木・河治・大橋)	第1位
400mリレー	(櫻井・鈴木・柳内・大橋)	第1位
200mメドレーリレー (河治・渡邊・大橋・櫻井)		第1位

■バドミントン (男子)		
団体戦		第2位
シングルス	川音 裕也 (2M)	第3位
〃	吉田 索 (2M)	1回戦敗退
〃	佐藤 暁 (4C)	1回戦敗退
〃	藁谷 真輝 (3M)	2回戦敗退
〃	磯井 友真 (4C)	2回戦敗退
ダブルス	佐藤 将時 (5K)	
〃	佐藤 暁 (4C)	1回戦敗退
〃	門馬 捷太 (2M)	
〃	川音 裕也 (2M)	2回戦敗退
〃	鈴木 将崇 (4C)	
〃	中塚 敏均 (3K)	2回戦敗退
■バドミントン (女子)		
団体戦		第1位
シングルス	川音みのり (1BC)	第1位
〃	谷口 夢実 (4K)	1回戦敗退
〃	清水 和恵 (4C)	2回戦敗退
〃	藤枝 まみ (4K)	2回戦敗退
〃	青田 理咲 (3C)	3回戦敗退
ダブルス	藤枝 まみ (4K)	
〃	谷口 夢実 (4K)	第2位
〃	遠藤菜々子 (5K)	
〃	清水 和恵 (4C)	1回戦敗退
〃	山野辺百花 (5K)	
〃	佐川 睦実 (5C)	1回戦敗退

第51回全国高専体育大会結果

■陸上競技		
豊田高専 (名古屋市瑞穂公園陸上競技場)		
(男子)		
学校対抗		第2位
200m	古和口 廉 (5K)	第1位
400m	古和口 廉 (5K)	第1位
〃	鈴木 陵太 (4E)	第4位
4×400mR	(作山・吉田・鈴木・古和口)	第1位
走幅跳	末永 淳 (1M)	第3位
〃	今野 和樹 (4K)	第5位
三段跳	今野 和樹 (4K)	第3位
〃	大平 健一 (5E)	第5位
やり投	渡邊 隆也 (5C)	第2位
〃	五十嵐拓海 (2E)	第13位
400mH	鈴木 陵太 (4E)	第1位
5000m	飯澤 将伍 (3K)	第20位
〃	熊谷 裕平 (3I)	第21位
砲丸投	櫛田 秀人 (4E)	第10位
〃	佐藤 将富 (3C)	第18位
円盤投	櫛田 秀人 (4E)	第5位
(女子)		
学校対抗		第10位
800m	武藤 咲希 (3I)	第2位
走幅跳	上环千華子 (2I)	第1位
4×100mR	(龍田・上环・木田・八島)	第7位
■卓球		
豊田高専 (豊田市総合体育館)		
(男子)		
団体戦		第2位
シングルス	矢内 智大 (5M)	第2位
〃	谷本 純一 (2E)	第5位
ダブルス	加藤 翔 (3E)	
〃	谷本 純一 (2E)	第5位
(女子)		
地区対抗戦		第1位
シングルス	大浦 悠 (5K)	第3位
〃	猪狩 栞菜 (4I)	第3位
ダブルス	大浦 悠 (5K)	
〃	佐藤 泉 (4I)	第1位
〃	高橋 百花 (3I)	
〃	岡部あゆみ (2I)	第2位
■バスケットボール (男子)		
鳥羽商船高専 (三重県営総合競技場)		
福島 69-78 豊田		1回戦敗退

■バドミントン		
富山高専 射水キャンパス (高岡市民体育館)		
(男子)		
団体戦		1回戦敗退
(女子)		
団体戦		2回戦敗退
シングルス	川音みのり (1BC)	2回戦敗退
ダブルス	谷口 夢実 (4K)	
〃	藤枝 まみ (4K)	1回戦敗退
■テニス		
岐阜高専 (岐阜メモリアルセンター・長良川テニスプラザ)		
(男子)		
団体戦		2回戦敗退
シングルス	橋本 拓実 (3M)	第3位
ダブルス	橋本 拓実 (3M)	
〃	菊池 洋輝 (5M)	1回戦敗退
(女子)		
シングルス	高橋なるみ (5K)	2回戦敗退
ダブルス	薄井小百合 (5C)	
〃	松田 歩華 (5C)	1回戦敗退
〃	高橋なるみ (5K)	
〃	高橋 朋世 (3K)	2回戦敗退
■サッカー		
沼津高専 (愛鷹広域公園)		
1回戦	福島 1-0 苫小牧	
2回戦	福島 3-4 沼津	2回戦敗退
■水泳		
富山高専 本郷キャンパス (富山県総合体育センタープール)		
学校対抗		第3位
(男子)		
200m自由形	池田虎太郎 (2I)	第8位
200m個人メドレー	佐々木龍之介 (2M)	第7位
100m背泳ぎ	生方 歩高 (5M)	第2位
200m背泳ぎ	生方 歩高 (5M)	第2位
400m自由形	池田虎太郎 (2I)	第8位
100mバタフライ	吉田 拓実 (2K)	第2位
200mバタフライ	吉田 拓実 (2K)	第2位
400mリレー	(池田・佐々木・吉田拓・生方)	第2位
400mメドレーリレー	(生方・脇田・吉田拓・池田)	第3位
(女子)		
200mリレー	(櫻井・鈴木・柳内・大橋)	第3位

第62回福島県高等学校体育大会結果

■陸上競技 (男子)		
走高跳	秋野 涼 (2E)	第8位
やり投げ	五十嵐拓海 (2E)	第4位 (東北大会出場)
ハンマー投	佐藤 将富 (3C)	第7位
■陸上競技 (女子)		
800m	武藤 咲希 (3I)	第6位 (東北大会出場)
走幅跳	上环千華子 (2I)	第5位 (東北大会出場)
棒高跳	上环千華子 (2I)	第2位 (東北大会出場)
〃	八島すみれ (2I)	第7位
■バレーボール (女子)		
1回戦敗退		
■ソフトテニス (男子)		
団体戦		2回戦敗退
ダブルス	吉田 翔太 (3K)	
〃	乙山 翔太 (3K)	ベスト16
〃	小野 智也 (3M)	
〃	小泉 亮太 (3C)	2回戦敗退
■ソフトテニス (女子)		
団体戦		2回戦敗退
■硬式テニス (男子)		
学校対抗戦		3回戦敗退

シングルス	橋本 拓実 (3M)	3回戦敗退
ダブルス	橋本 拓実 (3M)	
〃	蛭田 貴之 (3E)	第4位 (東北大会出場)
〃	福永 勇満 (3K)	
〃	澤田 怜悟 (3C)	2回戦敗退
■硬式テニス (女子)		
学校対抗戦		1回戦敗退
■卓球 (男子)		
学校対抗戦		第3位
シングルス	谷本 純一 (2E)	ベスト16
〃	加藤 翔 (3E)	ベスト32
ダブルス	谷本 純一 (2E)	
〃	加藤 翔 (3E)	ベスト16
■卓球 (女子)		
団体戦		第3位
シングルス	高橋 百花 (3I)	ベスト8
〃	岡部あゆみ (2I)	18位
〃	鈴木 梨恵 (2K)	ベスト32
ダブルス	鈴木 梨恵 (2K)	
〃	小林 千莉 (3K)	ベスト16
■剣道 (男子)		
団体戦		2回戦敗退

■水泳(男子)			
50m自由形	男子総合	第8位	
〃	大和田直希 (1E)	予選敗退	
〃	井上 亮 (2M)	予選敗退	
〃	山口 聖二 (2I)	予選敗退	
100m自由形	箭内 武敏 (1M)	予選敗退	
〃	大和田直希 (1E)	予選敗退	
200m自由形	池田虎太郎 (2I)	第6位 (東北大会出場)	
1500m自由形	佐々木龍之介 (2M)	第8位 (東北大会出場)	
〃	池田虎太郎 (2I)	予選敗退	
〃	坂本 亮太 (3M)	予選敗退	
100m背泳ぎ	佐々木龍之介 (2M)	第8位 (東北大会出場)	
〃	今野 裕斗 (2E)	予選敗退	
〃	山口 聖二 (2I)	予選敗退	
200m背泳ぎ	箭内 武敏 (1M)	予選敗退	
〃	今野 裕斗 (2E)	予選敗退	
〃	小林 基晃 (2C)	予選敗退	
100m平泳ぎ	脇田 優希 (1M)	予選敗退	
〃	青木 亨論 (1C)	予選敗退	
〃	小林 基晃 (2C)	予選敗退	
200m平泳ぎ	脇田 優希 (1M)	予選敗退	
〃	太田 俊平 (1C)	予選敗退	
100mバタフライ	福原 至音 (2C)	予選敗退	
〃	吉田 拓実 (2K)	第2位 (東北大会出場)	
200mバタフライ	吉田 拓実 (2K)	第2位 (東北大会出場)	
200m個人メドレー	福原 至音 (2C)	予選敗退	
400mリレー(池田、山口、今野、吉田)	第7位 (東北大会出場)		
800mリレー(池田、山口、佐々木、吉田)	第6位 (東北大会出場)		
400mメドレーリレー(小林、福原、吉田、大和田)	予選敗退		

■水泳(女子)			
50m自由形	河治 早紀 (1BC)	予選敗退	
〃	古田 もも (2E)	失格	
〃	櫻井 友香 (3I)	予選敗退	
100m自由形	柳内 紅葉 (1BC)	予選敗退	
〃	櫻井 友香 (3I)	予選敗退	
100m背泳ぎ	河治 早紀 (1BC)	棄権	
100m平泳ぎ	柳内 紅葉 (1BC)	予選敗退	
〃	渡邊 涼子 (2I)	予選敗退	
200m平泳ぎ	渡邊 涼子 (2I)	予選敗退	
400mリレー	(櫻井、渡邊、柳内、河治)	予選敗退	
■バドミントン(男子)			
シングルス	団体戦	2回戦敗退	
〃	門馬 捷太 (2M)	2回戦敗退	
〃	川音 裕也 (2M)	1回戦敗退	
〃	藁谷 真輝 (3M)	1回戦敗退	
ダブルス	門馬 捷太 (2M)		
〃	川音 裕也 (2M)	3回戦敗退	
■バドミントン(女子)			
シングルス	団体戦	1回戦敗退	
〃	川音みのり (1BC)	1回戦敗退	
ダブルス	川音みのり (1BC)		
〃	大内 梨江 (1M)	3回戦敗退	
〃	青田 理咲 (3C)		
〃	菅野 日和 (2C)	2回戦敗退	
■弓道(男子)			
個人	尾崎 貴英 (3K)	予選敗退	
〃	高橋 晃樹 (2K)	予選敗退	
■弓道(女子)			
個人	諏江あきほ (3K)	予選敗退	
〃	阿部 樹季 (2C)	予選敗退	

東北高等学校体育大会結果

◎第71回東北高等学校陸上競技選手権大会			
男子やり投	五十嵐拓海 (2E)	予選敗退	
女子800m	武藤 咲希 (3I)	準決勝敗退	
女子走幅跳	上坪千華子 (2I)	予選敗退	
女子棒高跳	上坪千華子 (2I)	第6位	
◎第59回東北高等学校ソフトテニス選手権大会			
男子個人戦	吉田 翔太 (3K)		
〃	乙山 翔太 (3K)	1回戦敗退	
◎第57回東北高等学校テニス選手権大会			
男子ダブルス	橋本 拓実 (3M)		
〃	蛭田 貴之 (3E)	1回戦敗退	
◎第70回東北高等学校卓球選手権大会			
学校対抗男子		2回戦敗退	
男子シングルス	谷本 純一 (2E)	1回戦敗退	
学校対抗女子		2回戦敗退	

女子シングルス	高橋 百花 (3I)	2回戦敗退	
〃	岡部あゆみ (2I)	2回戦敗退	
◎第64回東北高等学校水泳競技大会			
男子200m自由形	池田虎太郎 (2I)	予選敗退	
男子1500m自由形	佐々木龍之介 (2M)	予選敗退	
男子100m背泳ぎ	佐々木龍之介 (2M)	予選敗退	
男子100mバタフライ	吉田 拓実 (2K)	第4位	
男子200mバタフライ	吉田 拓実 (2K)	第6位	
男子4×100mリレー(池田、今野、福原、吉田)	予選敗退		
男子4×200mリレー(池田、佐々木、山口、坂本)	失格		
(一般の部 福島県チームとして参加)			
男子50m自由形	生方 歩高 (5M)	第4位	
男子100m背泳ぎ	生方 歩高 (5M)	第3位	
男子4×50mリレー(生方、安部、寺田、加藤)	失格		

各協会・連盟主催大会等の結果

◎第69回東北学生陸上競技対校選手権大会			
学校対抗		第8位	
男子200m	古和口 廉 (5K)	第6位	
男子400m	古和口 廉 (5K)	第1位	
(日本学生陸上競技選手権大会出場)			
〃	鈴木 陵太 (4E)	第8位	
男子400m H	鈴木 陵太 (4E)	第8位	
砲丸投	櫛田 秀人 (4E)	第8位	
円盤投	櫛田 秀人 (4E)	第6位	
やり投	渡邊 隆也 (5C)	第7位	
◎第12回福島県ソフトテニスオープン選手権大会			
男子ダブルス	吉田 翔太 (3K)		
〃	乙山 翔太 (3K)	1回戦敗退	
〃	松本 恭彦 (5K)		
〃	山口 敦士 (5M)	予選敗退	
〃	千葉裕太郎 (4C)		
〃	高橋 昂太 (4C)	予選敗退	
〃	小野 智也 (3M)		
〃	小泉 亮太 (3C)	予選敗退	
〃	渡辺(磐城三和ISTC)		
〃	赤津 利也 (5E)	予選敗退	
◎ハイスchoolジャパンカップソフトテニス2016福島県代表選考会			
男子ダブルス	鈴木 涼真 (2E)		
〃	猪狩 智也 (2K)	1回戦敗退	
女子ダブルス	大坊知里子 (2I)		
〃	青木麻里乃 (2K)	2回戦敗退	
〃	古川 千尋 (3M)		
〃	福田 七唯 (2I)	1回戦敗退	
◎平成28年度福島県高等学校春季ソフトテニス大会			
男子団体戦	4部リーグ	第2位	
女子団体戦	6部リーグ	第2位	
◎第12回福島県シングルスソフトテニス選手権大会			
男子シングルス	武藤 尚樹 (5K)	2回戦敗退	
〃	松本 恭彦 (5K)	2回戦敗退	
〃	鈴木 溪太 (4K)	2回戦敗退	
〃	千葉裕太郎 (4C)	予選敗退	
〃	高橋 昂太 (4C)	予選敗退	
〃	吉田 翔太 (3K)	予選敗退	
女子シングルス	古川 千尋 (3M)	予選敗退	
◎第33回福島県春季ジュニアテニス選手権大会			
男子シングルス	橋本 拓実 (3M)	第5位 (東北大会出場)	
〃	蛭田 貴之 (3E)	2回戦敗退	
男子シングルス	福永 勇満 (3K)	1回戦敗退	
女子シングルス	高橋 朋世 (3K)	2回戦敗退	

◎第38回東北ジュニアテニス選手権大会			
男子シングルス	橋本 拓実 (3M)	予選敗退	
◎第33回福島県春季ジュニアダブルステニス選手権大会			
男子ダブルス	橋本 拓実 (3M)		
〃	蛭田 貴之 (3E)	ベスト8	
〃	福永 勇満 (3K)		
〃	澤田 怜悟 (3C)	3回戦敗退	
〃	齋藤 竜輝 (2C)		
〃	長谷川俊輔 (2C)	1回戦敗退	
女子ダブルス	高橋 朋世 (3K)		
〃	伊藤 有紀 (3I)	2回戦敗退	
〃	菊地 英里 (3I)		
〃	井上 舞 (2I)	1回戦敗退	
◎第48回北福島オープン卓球選手権大会			
男子シングルス	矢内 智大 (5M)	ベスト16	
〃	加藤 翔 (3E)	5回戦敗退	
〃	谷本 純一 (2E)	4回戦敗退	
〃	山本 崇史 (2K)	3回戦敗退	
〃	松崎 大悟 (2M)	2回戦敗退	
男子ダブルス	加藤 翔 (3E)		
〃	谷本 純一 (2E)	4回戦敗退	
〃	山本 崇史 (2K)		
〃	松崎 大悟 (2M)	3回戦敗退	
女子シングルス	佐藤 泉 (4I)	第2位	
〃	大浦 悠 (5K)	第3位	
〃	高橋 百花 (3I)	ベスト8	
〃	岡部あゆみ (2I)	ベスト8	
女子ダブルス	高橋 百花 (3I)		
〃	岡部あゆみ (2I)	第2位	
〃	大浦 悠 (5K)		
〃	佐藤 泉 (4I)	第3位	
◎平成28年度第1回福島県小中高校生卓球競技選抜強化リーグ大会			
男子シングルス	谷本 純一 (2E)	2組6位	
〃	加藤 翔 (3E)	4組2位	
〃	山本 崇史 (2K)	4組5位	
女子シングルス	高橋 百花 (3I)	1組4位	
〃	岡部あゆみ (2I)	1組6位	
〃	鈴木 梨恵 (2K)	5組2位	
◎平成28年度第2回福島県小中高校生卓球競技選抜強化リーグ大会			
女子シングルス	鈴木 梨恵 (2K)	6組2位	
◎平成28年度第3回福島県小中高校生卓球競技選抜強化リーグ大会			
男子シングルス	谷本 純一 (2E)	1組2位	
〃	山本 崇史 (2K)	4組3位	
〃	松崎 大悟 (2M)	5組3位	

女子シングルス	岡部あゆみ (2I)	2組 2位
〃	鈴木 梨恵 (2K)	5組 5位
◎第5回福島県7人制ラグビーフットボール大会		
予選リーグ敗退		
◎第69回福島県総合体育大会 県大会		
■陸上競技 (男子)		
200m	古和口 廉 (5K)	第3位
400m	古和口 廉 (5K)	第2位
〃	鈴木 陵太 (4E)	第3位
400mH	鈴木 陵太 (4E)	第7位
4×100mR	(今野、古和口、末永、鈴木)	第5位
4×400mR	(今野、吉田、鈴木、古和口)	第1位
少年男子Aハンマー投	佐藤 将富 (3C)	第5位
少年男子B走幅跳	末永 淳 (1M)	第1位
■陸上競技 (女子)		
棒高跳	上坪千華子 (2I)	第5位
走幅跳	上坪千華子 (2I)	第7位
■ソフトテニス (男子)		
ダブルス	吉田 翔太 (3K)	1回戦敗退
〃	乙山 翔太 (3K)	
■ソフトテニス (女子)		
ダブルス	古川 千尋 (3M)	3回戦敗退
〃	福田 七唯 (2I)	
■硬式テニス (男子)		
I部ダブルス	長谷川俊輔 (2C)	2回戦敗退
〃	齋藤 竜輝 (2C)	
〃	福永 勇満 (3K)	3回戦敗退
〃	澤田 怜悟 (3C)	2回戦敗退
II部シングルス	山野辺健太 (1M)	1回戦敗退
II部ダブルス	山野辺健太 (1M)	1回戦敗退
〃	逢田 世羅 (1K)	
〃	猪狩 伸斗 (1K)	
〃	根本 拓武 (1K)	1回戦敗退
■硬式テニス (女子)		
I部シングルス	菊地 英里 (3I)	1回戦敗退
〃	高橋 朋世 (3K)	2回戦敗退
I部ダブルス	井上 舞 (2I)	1回戦敗退
〃	小堺 愛紬 (2C)	
〃	高橋 朋世 (3K)	3回戦敗退
〃	菊地 英里 (3I)	1回戦敗退
II部シングルス	小林 夢奈 (1C)	

II部ダブルス	小林 夢奈 (1C)	1回戦敗退
〃	他校生徒	
■卓球 (男子)		
団体戦		第3位
シングルス	谷本 純一 (2E)	ベスト16
〃	加藤 翔 (3E)	ベスト32
■卓球 (成年男子)		
シングルス	安齋 正樹 (5K)	第3位
〃	矢内 智大 (5M)	(国体東北予選会出場)
予選リーグ敗退		
■卓球 (女子)		
団体戦		ベスト8
シングルス	高橋 百花 (3I)	ベスト32
■卓球 (成年女子)		
シングルス	大浦 悠 (5K)	予選リーグ敗退
〃	猪狩 葉菜 (4I)	予選リーグ敗退
〃	佐藤 泉 (4I)	予選リーグ敗退
■水泳 (男子)		
200m背泳ぎ	佐々木龍之介 (2M)	第2位
200mバタフライ	吉田 拓実 (2K)	第3位
■バドミントン (男子)		
シングルス	川音 裕也 (2M)	3回戦敗退
〃	門馬 捷太 (2M)	2回戦敗退
〃	藁谷 真輝 (3M)	1回戦敗退
ダブルス	門馬 捷太 (2M)	2回戦敗退
〃	川音 裕也 (2M)	
〃	中塚 敏均 (3E)	1回戦敗退
〃	栗木 智哉 (2M)	1回戦敗退
〃	藁谷 真輝 (3M)	2回戦敗退
〃	吉田 索 (2M)	
■バドミントン (女子)		
シングルス	川音みのり (1BC)	2回戦敗退
ダブルス	川音みのり (1BC)	3回戦敗退
〃	大内 梨江 (1M)	
■剣道 (男子)		
団体戦		1回戦敗退
◎第98回全国高等学校野球選手権福島大会		
1回戦敗退		
◎第95回全国高等学校サッカー選手権福島大会		
2回戦敗退		

各種大会等の結果

■写真部		
【コンテスト】		
第23回全国高等学校写真選手権大会		決勝進出
写真甲子園2016東北ブロック		
ひたち国際大道芸		
「撮ってクレールフォトコンテスト2016」		佳作
磯上 花音 (3I)		
第4回港町の人と風景の写真コンテスト		優秀賞
磯上 花音 (3I)		
【写真展】		
フラガールズ甲子園写真展2016inアリオス	開催	
第4回福島高専写真展inコルピット	開催	
いわき街なかコンサート写真展inアリオス	開催	
【写真集等】		
福島高専写真部写真集2015 Vol17	発行	
第4回福島高専写真部写真展フォトブック	発行	
フリーペーパー高校生通信Vol11-5「Gallery」	連載	
【主な写真提供】		
第6回フラガールズ甲子園ポスター&パンフ	提供	
いわき街なかコンサートポスター	提供	
アリオスフリーペーパー Vol151 PP4, 5, 7	提供	
【撮影会&ボランティア活動他】		
観音寺川・夏井千本桜撮影会	実施	
ひたち国際大道芸大会撮影会	実施	
H28年東北高専体育大会記録撮影	実施	
第6回フラガールズ甲子園撮影	実施	
小名浜花火大会撮影会	実施	
(株)シグマ会津工場見学	実施	
いわき地区高等学校写真連盟技術講習会参加		
宮城県石巻市田代島「猫」撮影会	実施	
■吹奏楽部		
吹奏楽コンクール県大会大学の部		銀賞
■将棋部		
第52回全国高等学校将棋選手権大会福島県大会		
団体戦	長谷川貴哉 (3K)	
〃	野村 賢史 (3C)	
〃	瀧田 大地 (2M)	優勝
個人戦	松山 拓矢 (3C)	
〃	鈴木 涼佑 (1C)	
決勝トーナメント 1回戦敗退		
第29回全国高校将棋竜王戦福島県大会		
個人戦	鈴木 涼佑 (1C)	2回戦敗退
〃	瀧田 大地 (2M)	ベスト8
〃	高木 迅哲 (3K)	2回戦敗退
〃	会田 優斗 (3K)	第4位
第40回全国高校総合文化祭将棋部門・高校将棋選手権大会		
団体戦	長谷川貴哉 (3K)	
〃	野村 賢史 (3C)	

	瀧田 大地 (2M)	予選敗退
第23回全国高等専門学校将棋大会		
団体戦	中村 泰貴 (5E)	
	長谷川貴哉 (3K)	
個人戦	会田 優斗 (3K)	予選敗退
〃	野村 賢史 (3C)	1 回戦敗退
〃	瀧田 大地 (2M)	1 回戦敗退
〃	松山 拓矢 (3C)	予選敗退
〃	菊池 俊祐 (3C)	予選敗退
■サイクリング部		
第52回東北サイクリング大会	参加(兼実行委員補助)	
■演劇部		
第38回福島県高等学校演劇連盟夏季研修会	参加	
■エネルギー研究会		
ワールド・グリーンチャレンジ2016		
ソーラーカー部門	エンジョイクラス 3 位	
総合	11位	
グリーンラリー	優勝	
■分子生物学愛好会		
第28回知能ロボットコンテスト2016	参加	
チャレンジャーズコース		
堀越くまさんSSSK		
鈴木 萌花(4C) 笹川 桃佳(4C)	1 次予選 1 位通過	
鈴木 琴乃(2C) 門井真理乃(2C)	2 次予選敗退	
チャレンジャーズコース		
堀越くまさんN02		
鈴木 琴乃(2C) 門井真理乃(2C)	1 次予選 8 位通過	
	2 次予選敗退	
マスターズコース		
堀越くまさんSSKI		
鈴木 萌花(4C) 笹川 桃佳(4C)	一條 祐里奈(2C)	
	1 次予選 2 位通過	
	2 次予選敗退	
■ストリートダンスサークル		
いわき街なかコンサート	参加	
DANCE@LIVE rize 東北大会	ベスト 8	
DANCE@LIVE rize 東北大会	ベスト 4	
■ディベートサークル		
東北中学・高校ディベート選手権大会	第 4 位	



部 員



(撮影した)写真が採用された
(イベント)ポスター



今まで発行した7冊の写真集



第4回コーポリット写真展の様子



磐陽祭の様子 (H27年)

写真部紹介

写真部顧問 布施 雅彦

約10年前に、私が写真部の舵取りを依頼された時代は、学生によるフィルム写真が衰退し、デジタル機器が高価で、部にデジタル機材がなく、部員も数名で知名度も低く、高専祭写真展も人がまばらという状態でした。また、いわき地区高校写真の大会にも参加が危ぶまれる状態でした。それからの地道な取り組みにより、東北高専文化部発表会で9年連続の特選と最多受賞、いわき地区高等学校でも7年連続特選と最多受賞、そして、高校写真の最上位の大会である全国高等学校写真選手権大会（写真甲子園）では過去7回の応募で東北ブロック決勝に県内最多の3回進出し、県内の強豪に変貌しました。高校写真の大会だけでなく、一般のフォトコンにも応募し、過去のいわき市美展では学生初の受賞、古殿流瀧馬フォトコンで特選など大人顔負けの結果も出してきました。

地域活動において、2008年からいわき街なかコンサートin TAIRA、2011年からフラガールズ甲子園など、いわきを代表するイベントと連携し、公式撮影を通してポスター、パンフレット、報告書等の写真を提供しています。また、震災復興では、震災時に関東の方と連携し、福島の写真を絵葉書にし、チャリティー写真展を開催し、売上を寄付してきました。また2012年から4年間にわたり、いわきアリオス1階で7～10月の4ヶ月間ほど上記イベントに関連した写真展を開催し、いわきを明るくできればと応援しています。そのような活動からなのか、昨年の磐陽祭では過去最高の500名超える来場者があり、「窮屈で写真が見れない」という悲鳴があがりました。そして、写真部WEBサイトも約100万件のアクセスを記録しています。

活動の幅も、戸部記念財団等の多額で多様な活動支援により、学生は無料で東京の一流の写真展見学や裏磐梯撮影旅行、平市内において本格的なギャラリーでの写真展開催（4回）、専門家による技術指導など幅広い活動が可能になり、結果につながっています。高性能カメラ内蔵のスマホが普及し、誰もが気軽に撮影可能になり、本格的に写真を始める人の年齢層が上がり、どこの高校写真部も部員獲得に苦労がありますが、高専も来年から正式に県総文、再来年から全国総文に参加できることになり、しっかりした活動を通してやる気につなげたいと思います。

福島高専写真部WEBサイト <http://photo.fukushima-nct.ac.jp>

サッカー部の昔と今と初めてづくり

サッカー部顧問 山ノ内 正司



いわきサッカー協会特別賞

サッカー部の顧問になってから随分と長い年月が経ってしまった。のべ29年になる。奇しくも定年を迎える年に、サッカー部の活躍を紹介する紙面を頂いたので、昔を振り返りながら最近の活躍ぶりを紹介したいと思う。

サッカー経験のない私が顧問になったのは、昭和54年。私が福島高専に採用された年である。その当時の主な公式試合といえば、東北地区高専体育大会、福島県大学サッカーリーグ、そしていわき社会人リーグ位しかなかった。というのは、高専生のサッカー協会への登録枠が社会人・大学と同じ1種であったからである（高校は2種）。

今でも忘れないその翌年の5月、サッカー部員十数名と一緒に磐越東線の車中にいた。始発の電車だったと思う。郡山駅で乗り換えて福島駅で下車。向かうは福島市内のグラウンド。大学リーグ・福島大学戦であった。終わってみると、20数対ゼロで惨敗。練習も不十分で、どうにか頭数だけを揃えて臨んだ結果だった。

その後、サッカーに詳しい教員が赴任したので、他の部の顧問に就いていたが、平成2年10月に縁あって再びサッカー部に関わることになった。相変わらず大半の1・2年生は試合出場の機会が少なく、彼らのモチベーションをいかに高めていくかが大きな課題であった。また、過去20年近く全国大会に出場していなかったため、多くの選手は全国が雲の上の大会のように感じていた。

平成7年頃、サッカー部にとって、というよりは高専にとって、大きな転機が訪れた。高体連に正式に参加できることになり、低学年も同世代の選手と同じ土俵でサッカーを楽しめるようになった。以来、3年生の部長を中心とした高校チーム、5年生の部長を中心とした高専全体チームという、高専独自の不思議なチーム構成になり、新入部員の定着率も高まってきた。数年後、諸事情により大学サッカーリーグと社会人リーグからは身を引いた。高専大会では、平成6、13、19、25年と6、7年サイクルで全国大会に出場することができたが、残念ながらすべて初戦敗退。

福島高専チームが大躍進を遂げたのが、平成27年の全国大会（大分大会）であった。東北地区第一代表にもかかわらず組合せが悪く、初戦は前年度優勝校第一シードの近畿大学高専。大会屈指の強豪校で、9年前に1-5で大負けしている。相手の主力選手はベンチ入りだった。ずっと初戦敗退を続けてきた福島高専には失うものが何もなく、どこか別の枠に入ったとしても、勝ち進んでいけばいずれはぶつかる相手、と選手全員が腹を決めた。結果は1-0で、大会関係者の予想を裏切るまさかの大金星。全国大会初勝利といっても過言ではなかった（40年ほど前に1勝したという記録は残っているが…）。準々決勝では石川高専に1-0で辛勝し、初めて準決勝に進んだ。選手全員が夢の様な勝利感を味わうとともに、2回勝てば準決勝という当たり前のことを初めて実感できた瞬間でもあった。準決勝では鈴鹿高専に敗れたものの、全国第三位という輝かしい結果を残すことができた。この栄誉をたたえて、いわきサッカー協会より協会特別表彰を頂いた。今年は東北地区2位ながら全国大会のキップを手にし、初めての2年連続出場、初めての2年連続1回戦突破を果たした。

これらの経験によって、雲の上の大会から、手の届く大会になったし、どうすれば全国大会で勝利できるか選手の意識が変化してきた。部の財産として継承していかなければならない。この4年間で3回の全国大会出場を果たし、ライバルの八戸高専（？）とともに東北地区の高専サッカーを牽引する存在になった。

最後に、近年の活躍ぶりで忘れてならないのが、3級審判員と2級審判員が輩出していることである。現在5年生2名が、3級審判員として各種の大会運営に貢献している。5年間のなかでスキルアップができることも高専の強みの一つである。また本年は、女子サッカー部員2名が初めて誕生し、平商業・ふたば未来学園・福島高専の3校による合同チームとして、近々新人大会に出場することになっている。

一つひとつの試合結果はもうおぼろげになってしまったが、毎年の個性あふれる選手たちの勇姿は、語り尽くせないほど脳裏に焼き付いている。



原子力規制庁「原子力規制人材育成事業」本校の取組が採択

標記の公募事業に本校の取組み「地域の環境回復と環境安全に貢献できる原子力規制人材の育成」が採択されました。

本事業は、原子力発電所事故による放射能汚染から地域の環境を回復するという地域課題に取り組み、環境モニタリングや環境放射能量の低減化手法などの知識や技術を修得して、地域の環境回復に貢献するとともに、放射線利用における安全性に配慮できる人材の育成を目指します。

本科準学士課程から専攻科課程の7年間にわたる新たな教育プログラム「環境安全学修プログラム」を構築し、原子力規制人材の育成を行います。

具体的には、地域の環境回復や放射性廃棄物の処理処分に関連する「原子力規制に関する授業」に加えて、「複合型インターンシップ」、「COOP 教育（企業や自治体、NPOなど地域の人材との共同教育）によるPBL（Problem-based Learning）型学生研究」といった体験的学習から構成されます。

補助期間は、今年度から5年間で平成32年度まで原子力規制庁からの補助金の交付があります。

平成28年度グローバル高専事業（拠点校）採択

福島高専は、平成28年度グローバル高専事業に採択され、第2ブロック内のグローバル高専（拠点校）となりました。

1. English for Engineersの開発
2. Communicative English教育の充実
3. 海外派遣の充実
4. 英語環境の整備
5. 第2ブロック間の連携の5本の事業を計画、実行しています。

工業系英語の開発として、英語の専門用語を定着させるため、英語音声とTOEIC模擬試験のパッケージを作成しています。英語でコミュニケーションを取る事ができるように、英語の少人数クラスを導入し、外国人の先生も増員しました。これまで、生の英語に触れる機会の少なかった工業系の3、4年生も、一週間に一回は、英語による英語の授業を受けることになりました。また、昨年度に引き続き、オンラインによる英語及び外国語学習も続けています。海外派遣としては、トビタテ！留学JAPANを始め、複数のプログラムを使ってこの夏50名の学生が海外留学、海外インターンシップを行いました。今後、洋書の蔵書を増やし、図書館に英語のコーナーを作り、留学生の宿泊施設を充実させ、第2ブロックと連携を取って、本校のグローバル化を進めていく計画です。



第1回廃炉創造ロボットコンテストに15チーム出場決定

日本原子力研究開発機構榎葉遠隔技術開発センター（榎葉町）で、12月3日（土）に開催される「第1回廃炉創造ロボットコンテスト」に、全国の国公立高専から13校、15チームが出場します。

このロボットコンテストは、文部科学省の委託事業「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業『廃止措置研究・人材育成等強化プログラム』」の一プログラムとして開催するもので、ロボット製作を通じて学生の廃炉に関する興味を持たせると同時に、学生の創造性の涵養に貢献し、課題解決能力のみならず課題発見能力を養うことを目的に全国の高専生を対象としています。競技内容は、福島第一原子力発電所の原子炉建屋内を想定し、競技フィールドを「モックアップ階段」と「ステップフィールド」の2種類設定し、あらかじめ設定してある競技フィールドの環境の下で課題をクリアするものです。競技は10分間のプレゼンテーションと10分以内の実演によって競います。

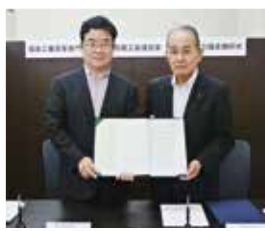
9月1日、2日には参加学生を対象に榎葉サマースクールを開催し、福島第一原子力発電所の視察、榎葉遠隔技術開発センターでの廃炉に関する講義を行いました。参加した学生は廃炉の現場を直接自分の目で見る事で、現場は今までのイメージと全く違う事を実感していました。



産学連携に係る協定書の締結について

5月17日（火）、福島県商工会連合会と産学連携に係る協定を締結しました。協定は、地域の発展と産業の振興、人材の育成を目的として、それぞれが保有する研究シーズ、地域産業情報、支援ノウハウ等を活用した連携協力を行うというものです。

この締結に基づき「野心ある高校生ハイスchoolカレッジ」と称するビジネス講座を7月23日から4回シリーズで実施しました。企業の方々からも積極的な協力をいただき学生の熱心な取り組みがみられました。コンテストの優勝チームは韓国でのビジネス研修を実施して、国際的なビジネス感覚の育成も行われました。福島県の復興を見据えた中長期的な人材育成に寄与できた取り組みと評価しております。



今後は、福島高専の研究成果等のシーズと地域企業のニーズのマッチングや学生の教育支援などに向けた取組みを進め、さらなる連携の強化を進めて行く所存です。

成長

建設環境工学科5年 古和口 廉

中学時代から陸上競技をしていた私は、頑張ってもせいぜい県大会に出場できるかどうかという選手でした。福島高専に入学し少しでも強い選手になろうと、迷うことなく陸上部に入部しました。日々の練習はとても辛く大変なものでした。しかし、その練習をこなししていくうちに、自分でも驚くくらいに成長しており、2年生、3年生時にはインターハイや国体に出場することもできました。4年生になると大学生と同じ舞台になり、東北インカレで優勝しなければ全日本インカレに出場することができません。それは決して簡単なことではなく、4年生の時は2位で全日本インカレに出場することは叶いませんでした。その年の冬、出場できない悔しさをかみしめながら練習に打ち込みました。そして今年の東北インカレでは目標としていた優勝を勝ち取ることができました。この優勝は先生やチームメイト、家族の支えがあったからこそ成し遂げられたと思います。支えてくれた方々に感謝しつつ、今度は後輩たちを支えることで今まで受けてきたたくさんの恩を少しでも返せるようにしたいです。



震災から5年、自分の目で見て学ぶ福島の旅

(トビタテ!地域人材コース ツアー企画)

福島浜通りグローバル人材育成事業推進協議会 地域コーディネーター 加藤 明子



7月9日に、福島浜通り地域人材コース有志6名の企画によるツアーが開催されました。全国のトビタテ生とその知人の6名、トビタテプロジェクトチームより2名が参加しました。この企画の実施にあたり、学生たちは募金活動を行い、また現地事前視察を繰り返したり、自分たちでパンフレットを製作したりと、入念に準備してきました。当日は、旧富岡駅、天神岬、久ノ浜をまわり、いわき市内の仮設住宅を車内から見て湯本温泉に宿泊しました。久ノ浜では、語り部の方から、震災当時の様子を聞き、

あらためて被害の大きさと当時の困難な状況を知りました。翌日は、スパリゾートハワイアンズでの地域人材コース壮行式、そしてアクアマリンでスタッフから被災時から復興までの話を聞きました。宿泊した夜には、留学に対する思いや浜通りが抱える問題について、熱心な議論が行われ、参加した他県からの学生との交流はツアー後も続いています。浜通りに足を運んでくださった皆さん、企画、実行に積極的に携わった学生の方々に感謝申し上げます。



工学系4学科の改組(名称変更)について

本校では、イノベーション・コースト構想(東日本大震災からの復興、原子力発電所の廃炉)への対応、世界に活躍するグローバル人材の育成、創意工夫が出来るイノベーション人材の育成を目的に平成29年4月に本科工学系4学科を改組(名称変更)します。これは、平成27年度の専攻科の改組、平成28年度のコミュニケーション情報学科のビジネスコミュニケーション学科への改組に続くもので、社会環境の変化、社会及び学生のニーズの変化に対応した切れ目ない改革を行います。

具体的には、機械工学科をエネルギー技術系列と生産技術系列を有する機械システム工学科に、電気工学科を電力システム系列と電子システム系列を有する電気電子システム工学科に、物質工学科を環境マテリアル系列とアグリ・バイオ系列を有する化学・バイオ工学科に、建設環境工学科を都市基盤系列と防災・減災系列からなる都市システム工学科に改組します。

ここでいう系列は一般のコースとは異なり、そこに所属するのではなく、取得する科目群によって分類されるものです。専門基礎科目を重視しつつも、学生が主体的に選択できる科目を増やし、キャリアパスをデザインできるセルフ・キャリア・デザイン(Self Career Design)制度を全学科に導入します。

地域貢献事業について

◆「平成28年度第7回中学生英語スピーチコンテスト」開催される

去る7月30日（土）に本校開放事業第7回中学生英語スピーチコンテストが本校の会議室を会場に開催されました。今年は県内の12中学校から15名が参加して実施されました。題は自由で、5分以内のスピーチで競い合いました。スピーチの内容がかなりレベルが高く、原稿作成の段階で相当の努力がなされたものと推測されました。またそれを多くの人の前で説得力を持って発表できるようにするために、かなり練習を積んできているようでした。出来栄は、発音の正確さ・明瞭性、流暢さ、パフォーマンスなどに個人的に多少差はありましたが、どの参加者も一つの事をやり遂げたという達成感を強く感じているようでした。閉会式の後、一緒に写真を撮ったりして、交流を深めていました。



◆出前授業

地域復興支援室

本校では、復興人材育成事業として、再生可能エネルギー、原子力安全、防災・減災の3分野における教育、研究、地域貢献を行っています。その教育・地域貢献の1つとして、いわき市を中心とした福島県内の幼稚園・保育所、小中学校、公民館等の依頼により、例年、10件前後の出前授業を実施しています。

今年度は、7月1日（金）に「電気エネルギーとはどんなもの？ソーラーカーを作ってみよう！」（担当：橋本・徐）を好間第二小学校で、9月17日（土）に「モーターを作ってみよう！」（担当：山本・橋本）を小川小学校で、9月15日（木）、17日（土）、27日（火）に「放射線のでるところを見てみよう！」（担当：實川・片山）を好間第二小学校、小川小学校、夏井第一小学校それぞれで行いました。ほとんどの児童が初めての体験で、目を輝かせて参加していた姿が印象的でした。

例年、公民館主催の市民講座からの依頼も多く、幅広い年齢層を対象に行っています。



新任教職員紹介



一般教科・国語科 渡辺 賢治

本年4月1日付で一般教科（国語科）に着任しました渡辺賢治です。3月まで島根県に所在する松江高専で任期制教員として2年間ほど勤務しておりました。山陰から東北の地へと大移動しましたが、出身地は北海道であるため距離的には地元に近いとなりました。福島県はもとより東北での生活は初めてですので、様々な魅力を吸収出来ればと思います。また、学生の皆さんには国語の授業を通して「人生の財産」となる日本語表現力を培ってもらえるよう、楽しくも有意義な授業をして参る所存です。どうぞ宜しくお願い致します。



ビジネスコミュニケーション学科 ニュム・フー・ビン

ビジネスコミュニケーション学科のNguyễn-Phú Bình（ニュム・フー・ビン）です。2006年より、ベトナムと日本で経営・マーケティングと言語の指導経験があります。特に、観光分野に関する基礎知識や研究方法について、学部生・大学院生に指導をしてきました。

個人的知識は有限ですが、集団での知識は無制限というのが、私の信念です。自分の知識をみなさんと共有し、同時に、みなさんの知識も共有させていただくことで、より良い教育・研究を実現したいと考えています。



電気工学科 若松 孝

私は、この4月に長年勤めてきた茨城高専より、教員交流で本校に赴任して来ました。私の出身地にある福島高専に勤める機会をもつことができ、大変喜んでおります。赴任して早、半年が過ぎようとしておりますが、高専カルチャーの違いに戸惑いながらのスタートでした。福島高専は、実験設備が充実しており、地域からも無くてはならない存在であって、その果たすべき使命は大いと感じています。学生の皆さんや教職員の方と交流を深め、充実した2年間の交流期間を研鑽して行きたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いします。



ビジネスコミュニケーション学科 渡辺 エリカ

私の名前は渡辺エリカです。カナダ出身ですが日本に長年住んでいます。私の最初の予定では英語を1、2年日本で教えてからアジア地域を旅するはずでしたが、最終的には日本に留まりました。

12年前から高専にて非常勤講師として働き始めましたが、6月より常勤講師となりました。私のクラスでの目標は楽しみながら英語を学び、生徒たちの将来において英語を話せることが、いかに重要か理解してもらうことにあります。こちらで生徒たちに英語を教え先生方と一緒に働けることは楽しく、たくさんの職員の方々に会えるのも楽しみです。

どうか何かお役に立てることがあれば、遠慮なく私に聞いて下さい。私の自由時間には、旅行、読書、運動を楽しんでいます。私はいくつかのヨーロッパの国々、アジア、南アメリカに行ったことがありますが、いつの日かアフリカにも行ってみたいです。私の夢はサファリに行き、自然生息地での動物に会うことです。



機械工学科 赤尾 尚洋

6月20日付けで機械工学科に着任いたしました赤尾尚洋（たかひろ）と申します。前職の鳥取大学より赴任して参りました。専門の研究分野は材料工学で、対象は主に金属やセラミックス材料およびそれらの複合材料です。また私は本校における「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の推進を拝命しております。この事業では「ふくしまの未来を担う地域循環型人材の育成」を目指しており、具体的には地元志向の卒業生が安心して地域企業に就職し活躍できるようにすることが目標です。その為に全力を尽くしたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任教職員紹介



建設環境工学科 江本 久雄

初めまして、7月1日付で建設環境工学科に着任しました江本と申します。よろしくお願い致します。私の専門は、情報技術を活用した社会基盤構造物の維持管理です。高度に技術が発展した状況では、土木分野と情報分野といった異分野の融合によって新しい技術が生まれると信じて取り組んでいます。

さて、今日の我々の状況は少子高齢化・人口減少など、はじめて経験する社会環境におかれています。高度な技術を発展させながら、生活を維持していくことは、とても大変なことです。新しい時代に適応できるような指導をしたいと考えております。



一般教科・数学科 伊野 翔次

本年9月1日付で福島高専に赴任してまいりました数学科の伊野翔次です。専門は解析学の一分野である作用素環論です。数学を通して将来の皆さんの力になればと思っています。

趣味は身体を動かすことで、学生時代はバスケットを、現在はクライミング（ボルダリング）をしており、休日には山奥の大自然の中で岩登りを楽しんでいます。学生の皆さんから多くの刺激とエネルギーを貰いながら、共に成長していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



一般教科・英語科 カーン・ムハマド・アジマル

私はパキスタン出身で、宇宙工学に関する研究を行っていましたが、世界最先端の科学技術を有する日本に興味があって来日してからは、筑波大学と協働してバリウムシリサイドを使用した太陽電池を開発したり、東日本大震災後には海外メディア向けレポーターとしても活動したほか、郡山では科学研究者として科学技術振興機構の太陽電池に関するプロジェクトにも関わりました。今後は、こちらで科学技術産業開発と持続可能な社会構築の為の英語を学生達に教えながら、太陽電池とLEDの研究を行っていきます。どうぞよろしくお願い致します。



学生課教務係 渡辺 育子

本年4月1日付けで学生課教務係に着任しました渡辺育子と申します。いわき市出身で、大学では国際共生社会について学んだこともあり、以前から、国際交流に貢献する働きをしたいと考えておりました。今回、主に国際交流担当事務ということで、まだまだ未熟な点ばかりではありますが、皆様に支えられ、様々な機会を与えて頂き、非常にやりがいを感じています。これからも、本校のより一層の国際化に貢献していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



モノづくり教育研究支援センター 技術職員 鈴木 摩耶

今年4月1日付で土木系の技術職員に着任しました鈴木摩耶です。出身は北茨城市で、本校の本科及び専攻科の卒業生です。卒業後は、長野県にある民間試験所に6年間勤め、主にコンクリート構造物の維持管理に関する調査・試験等に從事してきました。

これらの経験を生かして、学生や教職員の方々に積極的な技術支援を行っていければ幸いです。どんな些細な事でも躊躇せず、まずは気軽に声を掛けて頂ければと思います。分野を問わず、様々な視点から皆さんのサポートが出来るように日々精進して参りますので、どうぞ宜しくお願いします。

平成28年度 ミニ研究発表会

教務主事補 濱 崎 真 一

今年度もミニ研究発表会が、9月27日(火)、本校第一体育館を会場として開催されました。このミニ研究は、本校2年生を対象に平成18年に導入され、本年で11年切れ目なく継続開催された企画で、「教員の設定したテーマに基づいて研究し、低学年のうちに自分で調べる・考える・文章にまとめる・報告する・人前で発表するという過程を経験し、個々の能力を高める」という理念を掲げて、当初より現在に至るまで一貫して実施してきました。研究テーマは教員が自身の専門分野に関連したものを策定し、学生はその中から自分の所属する学科にとらわれずに、自身の興味や問題意識に基づいてテーマを選択して半年間の研究に取り組みます。これにより



大学では3、4年生(20歳以降)で触れられる研究を、本校では早期に2年生(16-17歳)の段階から体験でき、さらに他学科の専門分野を研究テーマとして選択することも可能なことから、視野の広い柔軟な発想を持つ人材の育成が期待できると考えています。この実践的教育の取り組みは本校の特色の一つであると自負しています。また、所属する学科以外の学生との共同作業、指導教員等との研究内容の話し合い、発表などを通し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上も期待しています。

この試みは、最近では他高専からも評価されており、本校を参考に、新たに同様の取り組みを実施しようとする高専もあると聞き及んでいます。

今年度は、46件のミニ研究テーマで募集を行い、内42テーマについて、学生は各研究グループに分かれて一生懸命に取り組みました。その姿勢は、時間を延長して放課後まで取り組む状況や、夏休み期間中に登校して取り組む状況からうかがえました。

研究成果を披露するミニ研究発表会では、多くの来場者にお越しいただき、盛況のうちに終了しました。発表は前半と後半の2つに分け、発表時間を各80分間としていることから、1回の発表は15分程度を目安としていますが、各テーマにおいて本校教員だけの聴講でも平均7人(最多で11名)の聴講を受けており、学生は限られた時間内で自分の研究成果を積極的に議論していました。2年生は、各学科において本格的な専門の実験・実習教育に入りだした学年であります。今回の研究成果と発表会状況から、このミニ研究の目標である自ら「考え」、「調べ」、「まとめる」ということの重要性に真剣に向き合えたのではないかと思います。この経験を糧にして、今後の実験・演習、卒業研究など、専門教育に真摯に取り組むことを2年生には期待したいと思います。

本年度も、ミニ研究発表会には1年生にも参加していただきました。来年度に発表を控える彼らにとっても、2年生の発表内容等をみて参考になるだけではなく、来年の自分に向けて奮起した者も多々いたのではないのでしょうか。今年度は、2年生の発表で気になる研究を全体から3つ選択してもらったアンケートを1年生の諸君には行ってもらいました。これにより、1年生が例年よりさらに真摯に発表を聴き入っていたと感じられました。その1年生たちの真剣な眼差しをみて、次年度も十分な成果と積極的なミニ研究発表会になるのではと確信しております。

発表会には、平日の開催にもかかわらず多くの保護者の皆様にご来場いただき、聴講していただきました。また、多くの教職員の方々にも聴講と評価に参加していただきました。

何より、根気強く熱心にご指導いただきましたミニ研究担当の先生方のお力添えにより、無事に発表会まで終了することができました。ミニ研究を支えていただきました皆様に感謝申し上げます。

平成28年度 校内体育大会

学生主事補 木次谷 聡

平成28年9月29日（木）、福島高専校内体育大会が行われました。この行事はスポーツを通じて各クラスの団結力を高めることともに、学科や学年を越えた学生間の交流を目的に行われています。

体育大会の企画運営は、学生会の体育大会実行委員会（委員長：4年機械工学科 広瀬陸君）と各クラスの体育委員が中心となり、学業やクラブ活動の合間をみて早い時期から準備を進めてきました。

当日はあいにくの雨天となってしまったため、屋外の種目を実施することはできませんでしたが、バレーボール、バスケットボール、卓球、バドミントン、ドッジボール、スポーツチャンバラ、大縄跳び、障害物競走が行われ、どの競技でも熱戦が繰り広げられていました。

各種目の成績順位に応じて得点を加算したところ、学年別対抗では1年生は機械工学科、2年生は建設環境工学科、3年生は電気工学科、4年生は建設環境工学科、5年生は機械工学科が優勝し、学科対抗総合では建設環境工学科が優勝しました。



平成28年度 行 事 予 定 (後期)

11月

4日(金) 磐陽祭準備 前夜祭
5日(土) 磐陽祭
20日(日) 全国高専ロボットコンテスト2016
(両国国技館)
22日(火) ~12月7日(水)
後期中間試験期間

12月

4日(日) 専攻科社会人入試
14日(水) 学生会役員選挙
17日(土) ~18日(日)
第13回 全国高専デザインコンペティション2016 in Kochi
高知高専主管校/高知ちばさんセンター
(高知市布師田)
23日(金) 閉寮(10:00)
冬季休業開始(1月10日【火】まで)
28日(水) 学校閉鎖期間(1月3日【火】まで)

2017年

1月

10日(火) 開寮(13:00)
11日(水) 授業開始
専攻科特別研究中間発表会(1年)
12日(木) 学習到達度試験(工学系4学科3年生対象)
基礎学力標準試験(数学)
(工学系4学科の1, 2年生対象)
TOEIC Bridge試験
(2年生・1年生ビジコミのみ対象)
他学生は臨時休講
14日(土) 推薦入試
25日(水) 学生総会
専攻科特別研究最終発表会(2年)

1月

28日(土) 卒業研究発表会(電気)
28日(土) ~29日(日)
第10回全国高専英語プレゼンテーションコンテスト
(国立オリンピック記念青少年総合センター)

2月

8日(水) ~14日(火)
後期期末試験
19日(日) 学力入試
20日(月) 学生臨時休業
22日(水) 後期授業最終日
月曜振替授業
23日(木) ~28日(火)
補講期間
24日(金) 卒業研究発表会(機械)
27日(月) ~28日(火)
卒業研究発表会(物質)(建設)(コミ)

3月

1日(水) 卒業研究発表会(物質)
2日(木) 終業式、寮送別会
7日(火) 地域フォーラム
専攻科特別研究公開発表会(2年)
17日(金) 卒業証書授与式
(いわき芸術文化交流館アリオス)
修了証書授与式
(いわき芸術文化交流館アリオス)
18日(土) 閉寮(10:00)

入 学 試 験 の 日 程

【本 科】

● 推薦による選抜

・願書受付 1月4日(水) ~6日(金)
・推薦入試 1月14日(土)
・合格内定通知発送 1月19日(木)

● 学力検査による選抜

・願書受付 1月30日(月) ~2月3日(金)
・学力入試 2月19日(日)
・合格発表 2月24日(金)

【専攻科】

● 社会人特別選抜

・願書受付 11月21日(月) ~25日(金)
・面接 12月4日(日)
・合格発表 12月8日(木)

編 集 後 記

学校だよりも前回は記念すべき100号でしたが、200号へ向けての新たな一歩がまたスタートしました。50年先、学科や専攻科の編成はどうなっているのだろうか、学生のインターンシップや体育大会は？卒業生の社会での活躍は？など高専や社会の未来を楽しみに思い描きながら、これからも学生のいきいきとした活動の様子を伝えていきたいと思います。お忙しい中、原稿を寄せてくださった皆様、誠にありがとうございました。